

佐世保市レッドリスト（2023年度改訂版）

2024年3月

佐世保市 ゼロカーボンシティ推進室

目 次

1 佐世保市レッドリストについて

- 1-1 レッドリストとは..... 1
- 1-2 佐世保市レッドリスト改訂の経緯及び目的..... 1
- 1-3 改訂の概要..... 2

2 佐世保市レッドリスト改訂内容

- 2-1 佐世保市レッドリスト 掲載種数一覧..... 3
- 2-2 佐世保市レッドリスト..... 4
 - ・植物種 [維管束植物、シダ植物、蘚苔類、藻類] 4
 - ・哺乳類 2 2
 - ・鳥類 2 3
 - ・爬虫類 2 7
 - ・両生類 2 8
 - ・淡水魚類 2 9
 - ・昆虫類 3 0
 - ・底生生物 3 5
 - ・甲殻類 3 6
 - ・貝類 3 7

3 保全することが望ましい地域

- 3-1 地図..... 4 6
- 3-2 対象地区と選定理由..... 4 7

4 佐世保市レッドリスト改訂委員長総評..... 4 9

1. 佐世保市レッドリストについて

1-1. レッドリストとは

レッドリストとは絶滅のおそれのある野生生物の種のリストです。国際的には国際自然保護連合（IUCN）が作成しており、国内では環境省や地方公共団体などが作成しています。

2021年6月に開催されたG7サミット（英国）で合意された「2030年自然協約」では、2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復させる（ネイチャーポジティブ）という目標達成に向け、取り組む必要があります。

また、近年の急速な開発行為等による自然環境の改変により、野生動植物の生息生育環境が悪化し、絶滅または絶滅のおそれのある生物種が増加していることがわかってきました。

多様な生物が生息生育する自然環境を維持できなければ、野生生物と共存してきた私たちの生活環境もまた損なわれてしまいます。

私たちは生物の多様性を維持するために、絶滅のおそれのある野生生物の保護を図っていかねばなりません。

1-2. 佐世保市レッドリスト改訂の経緯及び目的

本市では、市内に現存する野生生物を守り、将来世代が現世代と同様に自然の恵みを楽しむことができるよう、市内で絶滅のおそれのある野生生物の現状を明らかにした「佐世保市レッドデータブック」を、2002年（平成14年）に発行し、その中で絶滅のおそれのある野生生物の種の一覧「佐世保市レッドリスト」を公表しました。

その後、野生生物の生息生育状況の変化に鑑みてレッドリストを更新するため、2013年に「佐世保市レッドリスト（2013年改訂版）」を作成、そしてこの度、前回更新から10年経過した2023年に最新の情報を反映させた「佐世保市レッドリスト（2023年改訂版）」を作成しました。

野生生物の絶滅の原因のひとつとして、開発行為や乱獲等、人間の活動による影響が考えられます。

レッドリストに法的拘束力はありませんが、生物多様性国家戦略2023-2030に掲げられた2050年ビジョンである「自然と共生する社会」の実現及び佐世保市環境基本計画において掲げている望ましい環境像「豊かな自然と暮らしが未来にわたって続くまち」の実現、そして本市における絶滅のおそれのある野生生物に関する情報を、野生生物の保護及びその生息生育環境の保全に活用することを目的として、公表いたします。



ニッポンバラタナゴ（絶滅危惧IA類（CR））



カノコユリ（絶滅危惧IB類（EN））

1-3. 改訂の概要

2013（平成25）年のレッドリスト改訂以降、市域の自然環境の変化や研究による種名・科名の変化、カテゴリー変動の可能性があることから、有識者による最新の知見に基づいて掲載種のカテゴリー（危険性のランク）の再評価を行いました。

【再評価の方法】

野生生物に関する学識者及び市内の有識者からなる「佐世保市レッドリスト改訂委員会」において、現地調査結果、文献情報及び委員の知見等に基づいて、評価を行いました。

佐世保市レッドリスト改訂検討委員 名簿

役職	氏名	推薦団体及び所属
委員長	中西 弘樹	長崎県生物学会
副会長	大谷 拓也	西海国立公園平戸・九十九島地区パークボランティアの会
委員	今里 順一郎	日本野鳥の会長崎県支部
委員	川内野 善治	ふるさと自然の会
委員	中原 泰彦	長崎県生物学会
委員	西澤 正隆	長崎昆虫研究会
委員	松尾 公則	長崎県生物学会
委員	松尾 照男	長崎昆虫研究会

カテゴリーについては、「環境省レッドリストカテゴリーと判定基準（2020）」に準拠して評価を行いました。

ただし、これは日本国土全体を範囲として想定しているため、範囲を佐世保市内に限定しました。

また、環境省は「定性的要件」と「定量的要件（数値基準）」を併用していますが、日本国土全体を想定した「定量的要件」の一部はそのまま本市に適用することができず、本市では数値基準による評価が可能となるようなデータが得られない種も多いことから、主に「定性的要件」に基づいて評価し、「定量的要件」は参考として用いました。

なお、本市に生息生育する種のうち、環境省版レッドリストまたは長崎県レッドリストに記載されている種については、全てカテゴリーを設定しました。

絶滅のおそれのある種のカテゴリー

絶滅（EX）	佐世保市ではすでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅（EW）	飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種
絶滅危惧ⅠA類（CR）	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種
絶滅危惧ⅠB類（EN）	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種
絶滅危惧Ⅱ類（VU）	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧（NT）	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種
情報不足（DD）	評価するだけの情報が不足している種
絶滅のおそれのある地域個体群（LP）	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高い種

※前回改定からの新旧対照は4ページ「佐世保市レッドリスト」に記載。

※新旧対照に関して、「↑」は絶滅の危険性が上昇、「↓」は絶滅の危険性が減少したことを指します。

2-1. 佐世保市レッドリスト 掲載種数一覧

	絶滅 (EX)	野生絶滅 (EW)	絶滅危惧Ⅰ類		絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	準絶滅危惧 (NT)	情報不足 (DD)	合計
			I A類 (CR)	IB類 (EN)				
植物	22	0	80	87	106	77	17	389
哺乳類	0	0	1	0	4	1	3	9
鳥類	0	0	19	15	12	39	11	96
両生・爬虫類	0	0	3	2	6	2	2	15
淡水魚類	1	0	4	3	4	7	※LPが1	20
昆虫	2	0	24	14	35	31	7	113
底生生物	0	0	2	2	5	1	2	12
甲殻類	0	0	1	1	4	13	6	25
貝類	4	0	19	37	53	58	11	182
合計	29	0	153	161	229	229	60	861

2-2. 佐世保市レッドリスト

・植物種 [維管束植物]

(1) 絶滅の恐れのある生物種数の増減

- 絶滅 (EX) : 1 種から 22 種へ増加
- 絶滅危惧 I A 類 (CR) : 105 種から 65 種へ減少
- 絶滅危惧 I B 類 (EN) : 65 種から 71 種へ増加
- 絶滅危惧 II 類 (VU) : 45 種から 80 種へ増加
- 準絶滅危惧種 (NT) : 101 種から 66 種へ減少
- 情報不足 (DD) : 13 種から 16 種へ増加

(2) 絶滅及び I A 類の中で特に危機的となった主な理由

○絶滅種

- ・ムカゴトンボ (ラン科) : 長崎県植物誌 (1980 年 外山三郎) には佐世保に産することが記載されているが、35 年以上確認出来ない。
- ・クモラン (ラン科) : 長崎県植物誌 (1980 年 外山三郎) には北松世知原町に産することが記載されているが、35 年以上確認出来ない。
- ・ヒロウザサ (イネ科) : 長崎県植物誌 (1980 年 外山三郎) には佐世保に産することが記載されているが、35 年以上確認出来ない。
- ・オキナグサ (キンポウゲ科) 1984 年 5 月に、隠居岳の麓で大島通寛氏が採取している。採取地近辺を長年探したが発見出来なかった。本種の生育環境が既になくなっており絶滅したと考えられる。
- ・ミヤマネコノメソウ (イワボタン) (ユキノシタ科) : 長崎県植物誌 (1980 年 外山三郎) には北松 (国見岳) に産することが記載されているが、35 年以上確認出来ない。
- ・ツメレンゲ (ベンケイソウ科) : 長崎県植物誌 (1980 年 外山三郎) には佐世保に産することが記載されているが、35 年以上確認出来ない。
- ・アズキナシ (バラ科) : 長崎県植物誌 (1980 年 外山三郎) には北松 (国見岳) に産することが記載されているが、35 年以上確認出来ない。
- ・ゴキヅル (ウリ科) : 長崎県植物誌 (1980 年 外山三郎) には佐世保に産することが記載されているが、35 年以上確認出来ない。
- ・コバンノキ (トウダイグサ科) : 長崎県植物誌 (1980 年 外山三郎) には北松 (国見岳) に産することが記載されているが、35 年以上確認出来ない。
- ・ヒメノボタン (ノボタン科) : 長崎県植物誌 (1980 年 外山三郎) には佐世保 (隠居岳) に産することが記載されているが、35 年以上確認出来ない。
- ・コミネカエデ (カエデ科) : 長崎県植物誌 (1980 年 外山三郎) には北松 (国見岳) に産することが記載されているが、35 年以上確認出来ない。
- ・タチバナ (ミカン科) : 長崎県植物誌 (1980 年 外山三郎) には佐世保に産することが記載されているが、35 年以上確認出来ない。
- ・コクサギ (ミカン科) : 長崎県植物誌 (1980 年 外山三郎) には佐世保に産することが記載されているが、35 年以上確認出来ない。
- ・コモウセンゴケ (モウセンゴケ科) : 長崎県植物誌 (1980 年 外山三郎) には北松 (吉井) に産することが記載されているが、35 年以上確認出来ない。
- ・ナンバンハコベ (ナデシコ科) : 1980 年代に国見山の山腹で知人に教えて貰い確認したが、2 年後には確認出来なくなり、その後 30 年近く経過するが見出すことが出来ない。
- ・キツリフネ (ツリフネソウ科) : 長崎県植物誌 (1980 年 外山三郎) には北松国見岳に産することが記載されているが、35 年以上確認出来ない。

- ・ミヤマママコナ（ゴマノハグサ科）：長崎県植物誌（1980年 外山三郎）には北松（国見岳）に産することが記載されているが、35年以上確認出来ない。
- ・ママコナ（ゴマノハグサ科）：1995年10月に烏帽子岳で発見し3年ほどは確認していたが、その後見られなくなった。生育地が草に覆われたことが原因と考えられる。
- ・サワギキョウ（キキョウ科）：長崎県植物誌（1980年 外山三郎）には佐世保（湿地）に産することが記載されているが、35年以上確認出来ない。
- ・サワギク（ボロギク）（キク科）：1994年5月に3株を発見したが次第に減少し消滅した。消滅の原因は周辺の樹木が茂り日照不足になったことだと考えられる。
- ・メタカラコウ（キク科）：長崎県植物誌（1980年 外山三郎）には北松（国見岳）に産することが記載されているが、35年以上確認出来ない。
- ・ツルカノコソウ（オミナエシ科）：長崎県植物誌（1980年 外山三郎）には佐世保（烏帽子岳）に産することが記載されているが、35年以上確認出来ない。

○絶滅危惧 IA 類の中で特に危機的な種

- ・カワツルモ（ヒムシロ科）：市内の生育地は1カ所しかなく個体数も少ない。2022年に生育河川の浚渫が実施される計画があったため、影響を回避するために生育場所を避けて工事を行ったが、水量の変化など様々な生育環境の変化は避けられないので、今後が心配である。
- ・オノヤガラ（ラン科）：1994年8月に国見山山系で花が終わりかけている1個体を確認した。地上部が無くなった後は、地中の塊茎で休眠するので数年観察に通ったが見ることが出来なかった。長崎県植物誌（1980年 外山三郎）には北松（国見岳）に記録があるので心がけているがほぼ30年間確認が出来ていないので、絶滅の可能性がある。
- ・ダイサギソウ（ラン科）：市内の生育地は3カ所の草原であったが、2カ所はイノシシの掘り返しと太陽光発電施設所の建設で消滅。もう1カ所では現在3個体が見られるがここも至る所をイノシシが掘り返しており、非常に危険な状況である。
- ・ムカゴソウ（ラン科）：市内の生育地は1カ所であったが、その後の調査で発見出来ない。生育環境が減少している所以他の場所で発見出来る可能性は低く、絶滅の可能性が高い。
- ・フサスゲ（カヤツリグサ科）：市内の生育地は2カ所あったが、1カ所は草刈りが行われなくなり藪となったことで消滅した。もう1カ所の生育地は大きな群落があったが、ヤギが多数放された結果採食され、貧弱な個体が僅かに残るのみとなり、非常に危険な状況である。
- ・クサノオウ（ケシ科）：市内の生息地は1カ所しかなく個体数も少なかった。生育地が開発され住宅地となり見られなくなった。絶滅の可能性が高い。
- ・フサモ（アリノトウグサ科）：市内の2カ所の溜池に生育していたが、1カ所が埋め立てられ消滅。もう1カ所は溜池下部の水田が休耕地となり溜池の管理が行われなくなった結果見られなくなった。その後新たな生育地は見つかっておらず、絶滅の可能性がある。
- ・フジカンゾウ（マメ科）：市内の生育地は1カ所しかなく個体数も7個体と少なかった。生育環境の変化で個体数の減少が続き現在は2個体となっており今後が心配される。
- ・スズシロソウ（アブラナ科）：市内の生育地は1カ所しかなく個体数も少なかった。生育地周辺の水田が耕作放棄されたため、それに続く農道が使われなくなり藪となった結果見られなくなった。絶滅の可能性がある。
- ・キイレツチトリモチ（ツチトリモチ科）：佐世保市は本種の生育北限にあたるが、生育地は3カ所で共に島嶼である。1カ所の生育地に多数のヤギが放たれた結果、踏みつけまたは採食により見られなくなり絶滅の可能性がある。もう2カ所、生育地があったがイノシシの影響により見られなくなった。
- ・カラタチバナ（サクラソウ科）：市内の生育地は1カ所で個体数も2個体であった。その後1個体に減少し危険な状況にある。

- ・クルマムグラ（アカネ科）：市内の生育地は1カ所しかなく個体数も少なかった。イノシシの掘り返しで個体数の減少が続き2個体になっていた。しかし、この2個体は人工林の伐採搬出に伴う林道の改変で消滅。絶滅の可能性が高い。
- ・コイケマ（ガガイモ科）：市内の生育地は1カ所で1個体であった。発見から数年で見られなくなり、絶滅の可能性はある。
- ・ムラサキミミカキグサ（タヌキモ科）：市内の生育地は1カ所しかなく個体数も少ない。最近生育地はイノシシの増加と共に沼田場となり、非常に危険な状態にある。

(3) レッドリスト（維管束植物）

和名	科名	学名	環境省 カテゴリー	長崎県 カテゴリー	佐世保市 カテゴリー	新旧 対照
ムカゴトンボ	ラン	<i>Peristylus densus</i>	EN	EN	EX	↑
クモラン	ラン	<i>Taeniophyllum glandulosum</i>		CR	EX	↑
ヒロウザサ	イネ	<i>Pleiblastus nagashima</i>			EX	↑
オキナグサ	キンボウゲ	<i>Pulsatilla cernua</i>	VU	CR	EX	↑
ミヤマネコノメソウ （イワボタン）	ユキノシタ	<i>Chrysosplenium macrostemon</i>			EX	↑
ツメレンゲ	ベンケイソウ	<i>Orostachys japonica</i>	NT	NT	EX	↑
アズキナシ	バラ	<i>Sorbus alnifolia</i>			EX	↑
ゴキヅル	ウリ	<i>Actinostemma tenerum</i>		VU	EX	↑
コバンノキ	ミカンソウ	<i>Phyllanthus flexuosus</i>			EX	↑
ヒメノボタン	ノボタン	<i>Osbeckia chinensis</i>	VU	CR	EX	↑
コミネカエデ	ムクロジ	<i>Acer micranthum</i>			EX	↑
タチバナ	ミカン	<i>Citrus tachibana</i>	NT	EN	EX	↑
コクサギ	ミカン	<i>Orixa japonica</i>			EX	↑
コモウセンゴケ	モウセンゴケ	<i>Drosera spathulata</i>		VU	EX	↑
ナンバンハコベ	ナデシコ	<i>Silene baccifera</i> var. <i>japonica</i>		NT	EX	↑
キツリフネ	ツリフネソウ	<i>Impatiens noli-tangere</i>		EX	EX	→
ミヤマママコナ	ハマウツボ	<i>Melampyrum laxum</i> var. <i>nikko</i>			EX	↑
ママコナ	ハマウツボ	<i>Melampyrum roseum</i>			EX	新
サワギキョウ	キキョウ	<i>Lobelia sessilifolia</i>		CR	EX	↑
サワギク（ボロギク）	キク	<i>Nemoseneo nikoensis</i>		VU	EX	↑
メタカラコウ	キク	<i>Ligularia stenocephala</i>			EX	↑
ツルカノコソウ	スイカズラ	<i>Valeriana flaccidissima</i>		EN	EX	↑
ジュンサイ	ジュンサイ	<i>Brasenia schreberi</i>		VU	CR	→

ホオノキ	モクレン	Magnolia obovata		NT	CR	→
ヤナギスプタ	トチカガミ	Blyxa japonica		NT	CR	→
カワツルモ	カワツルモ	Ruppia maritima	NT	EN	CR	新
ナツエビネ	ラン	Calanthe reflexa	VU	VU	CR	→
ユウシュンラン	ラン	Cephalanthera erecta var. subaphylla	VU	EN	CR	→
カンラン	ラン	Cymbidium kanran	EN	CR	CR	→
セッコク	ラン	Dendrobium moniliforme		EN	CR	→
オニノヤガラ	ラン	Gastrodia elata			CR	→
ナヨテンマ	ラン	Gastrodia gracilis	EN	EN	CR	→
アケボノシュスラン	ラン	Goodyera foliosa var. maximowicziana		VU	CR	→
ダイサギソウ	ラン	Habenaria dentata	EN	EN	CR	→
ムカゴソウ	ラン	Herminium lanceum	EN	EN	CR	新
ヤクシマアカシュスラン	ラン	Rhomboda yakusimensis	VU	EN	CR	→
ガンゼキラン	ラン	Phaius flavus	VU	CR	CR	→
マイサギソウ	ラン	Platanthera mandarinorum var. neglecta			CR	→
トキソウ	ラン	Pogonia japonica	NT	VU	CR	→
カシノキラン	ラン	Gastrochilus japonicus		CR	CR	新
マツラン (ベニカヤラン)	ラン	Saccolabium matsuran	VU	EN	CR	↑
カヤラン	ラン	Thrixspermum japonicum		EN	CR	→
アキノワスレグサ (トキワカンゾウ)	ススキノ	Hemerocallis fulva var.sempervirens			CR	→
オオホシクサ	ホシクサ	Eriocaulon buergerianum		EN	CR	→
ツクシクロイヌノヒゲ	ホシクサ	Eriocaulon kiusianum	VU	EN	CR	新
ドロイ (ミズイ)	イグサ	Juncus gracillimus		NT	CR	→
ハリガネスゲ	カヤツリグサ	Carex capillacea			CR	↑
ヤガミスゲ	カヤツリグサ	Carex maackii			CR	→
フサスゲ	カヤツリグサ	Carex metallica			CR	→
クサノオウ	ケシ	Chelidonium majus ssp.asiaticum			CR	→

コキツネノボタン	キンボウゲ	Ranunculus chinensis	VU		CR	新
アワブキ	アワブキ	Meliosma myriantha			CR	→
フサモ	アリノトウグサ	Myriophyllum verticillatum		VU	CR	→
フジカンゾウ	マメ	Hylodesmum oldhamii			CR	→
ニワフジ	マメ	Indigofera decora		CR	CR	→
イヌハギ	マメ	Lespedeza tomentosa		VU	CR	→
オオバライチゴ	バラ	Rubus croceacanthus		-	CR	新
ホソバイラクサ	イラクサ	Urtica angustifolia			CR	新
ウメバチソウ	ニシキギ	Parnassia palustris var.Palustris			CR	→
ツクヌキオトギリ	オトギリソウ	Hypericum sampsonii	EN	NT	CR	→
コガンピ	ジンチョウゲ	Diplomorpha ganpi			CR	↑
スズシロソウ	アブラナ	Arabis flagellosa var.flagellosa			CR	→
キイレツチトリモチ	ツチトリモチ	Balanophora tobiracola			CR	→
モウセンゴケ	モウセンゴケ	Drosera rotundifolia		NT	CR	→
クサアジサイ	アジサイ	Cardiandra alternifolia var.alternifolia			CR	→
ヤマアジサイ (サ ワアジサイ)	アジサイ	Hydrangea serrata var. serrata			CR	→
バイカウツギ	アジサイ	Philadelphus satsumi			CR	→
カラタチバナ	サクラソウ	Ardisia crispa var. crispa			CR	新
ウメガサソウ	ツツジ	Chimaphila japonica		VU	CR	→
シャクジョウソウ	ツツジ	Monotropa hypopithys		VU	CR	新
クルマムグラ	アカネ	Galium japonicum			CR	→
センブリ	リンドウ	Swertia japonica		VU	CR	↑
ムラサキセンブリ	リンドウ	Swertia pseudochinensis	NT		CR	→
コイケマ	キョウチクトウ	Cynanchum wilfordi			CR	→
イガホオズキ	ナス	Physaliastrum echinatum		VU	CR	→
ヒナノウスツボ	ゴマノハグサ	Scrophularia duplicatoserrata var. duplicatoserrata		EN	CR	↑
カワミドリ	シソ	Agastache rugosa			CR	→
キバナアキギリ	シソ	Salvia nipponica var.nipponica			CR	→
ミゾコウジュ	シソ	Salvia plebeia	NT		CR	↑

キヨスミウツボ	ハマウツボ	<i>Phacellanthus tubiflorus</i>			CR	新
ミミカキグサ	タヌキモ	<i>Utricularia bifida</i>		VU	CR	→
ムラサキミミカキグサ	タヌキモ	<i>Utricularia uliginosa</i>	NT	VU	CR	→
イヌウメモドキ	モチノキ	<i>Ilex serrata</i> f. <i>argutidens</i>			CR	新
ホソバノヤマハハコ	キク	<i>Anaphalis margaritacea</i> var. <i>angustifolia</i> subsp. <i>angustifolia</i>			CR	新
オグルマ	キク	<i>Inula britannica</i> subsp. <i>Japonica</i>		EN	CR	→
テリハミヤマガマズミ	レンブクソウ	<i>Viburnum wrightii</i> var. <i>lucidum</i>			CR	→
トチバニンジン	ウコギ	<i>Panax japonicus</i>			CR	↑
ヒトリシズカ	センリョウ	<i>Chloranthus japonicus</i>			EN	↓
タイリンアオイ	ウマノスズクサ	<i>Asarum asaroides</i>		EN	EN	↓
アケボノアオイ	ウマノスズクサ	<i>Asarum kiusianum</i> var. <i>tubulosum</i>	VU	VU	EN	→
ヤマコウバシ	クスノキ	<i>Lindera glauca</i>			EN	↑
マイヅルテンナンショウ	サトイモ	<i>Arisaema heterophyllum</i>	VU	VU	EN	↓
ヒメテンナンショウ (キリシマテンナンショウ)	サトイモ	<i>Arisaema sazensoo</i>		VU	EN	→
マルミスブタ	トチカガミ	<i>Blyxa aubertii</i>	VU	NT	EN	新
スブタ (ナガバスブタ)	トチカガミ	<i>Blyxa echinosperma</i>	VU	NT	EN	→
イトトリゲモ	トチカガミ	<i>Najas gracillima</i>	NT	VU	EN	新
イバラモ	トチカガミ	<i>Najas marina</i>			EN	新
シバナ	シバナ	<i>Triglochin asiatica</i>	NT	NT	EN	↑
センニンモ	ヒルムシロ	<i>Potamogeton maackianus</i>		EN	EN	新
ヤナギモ	ヒルムシロ	<i>Potamogeton oxyphyllus</i>		VU	EN	↓
リュウノヒゲモ	ヒルムシロ	<i>Potamogeton pectinatus</i>	NT	EN	EN	↓
チゴユリ	イヌサフラン	<i>Disporum smilacinum</i>		VU	EN	↓
コバギボウシ	ユリ	<i>Hosta albo-marginata</i>			EN	→
ノヒメユリ	ユリ	<i>Lilium callosum</i>	EN	NT	EN	↑
カノコユリ	ユリ	<i>Lilium speciosum</i>	VU	VU	EN	→
ヒナラン	ラン	<i>Amitostigma gracile</i>	EN	VU	EN	↓
ムギラン	ラン	<i>Bulbophyllum inconspicuum</i>	NT	VU	EN	↓

キエビネ	ラン	<i>Calanthe sieboldii</i>	EN	VU	EN	↓
ナギラン	ラン	<i>Cymbidium nagifolium</i>	VU	VU	EN	→
カゲロウラン	ラン	<i>Zeuxine agyokuana</i>	NT	EN	EN	↓
ムヨウラン	ラン	<i>Lecanorchis japonica</i>		NT	EN	↑
ササバラン	ラン	<i>Liparis odorata</i>	EN	NT	EN	→
ヒメフタバラン	ラン	<i>Neottia japonica</i>		VU	EN	↑
フウラン	ラン	<i>Neofinetia falcata</i>	VU	EN	EN	↓
ムカゴサイシン	ラン	<i>Nervilia nipponica</i>			EN	新
ヤマサギソウ	ラン	<i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>mandarinorum</i> var. <i>oreades</i>		VU	EN	→
ヤマトキシソウ	ラン	<i>Pogonia minor</i>		VU	EN	新
ヒオウギ	アヤメ	<i>Iris domestica</i>			EN	→
ハマオモト	ヒガンバナ	<i>Crinum asiaticum</i> var. <i>japonicum</i>			EN	↑
ムジナノカミソリ 近似種	ヒガンバナ	<i>Lycoris sanguinea</i> var. <i>koreana</i>	EW	VU	EN	→
ヒメイズイ	キジカクシ	<i>Asparagus schoberioides</i>			EN	新
タチコウガイゼキ ショウ	イグサ	<i>Juncus krameri</i>			EN	→
ハリコウガイゼキ ショウ	イグサ	<i>Juncus wallichianus</i>			EN	↑
ウマスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex idzuroei</i>		EN	EN	新
キシユウナキリス ゲ	カヤツリグサ	<i>Carex nachiana</i>	VU	NT	EN	新
セイタカハリイ	カヤツリグサ	<i>Eleocharis attenuata</i>			EN	新
コイヌノハナヒゲ	カヤツリグサ	<i>Rhynchospora fujiana</i>			EN	新
メノマンネングサ	ベンケイソウ	<i>Sedum japonicum</i> subsp. <i>Japonicum</i>			EN	→
シバネム	マメ	<i>Smithia ciliata</i>	DD	EN	EN	↓
オニグルミ	クルミ	<i>Juglans</i> <i>mandshurica</i> var. <i>sachalinensis</i>			EN	→
チドリノキ (ヤマ シバカエデ)	ムクロジ	<i>Acer carpinifolium</i>			EN	↓
フシグロ	ナデシコ	<i>Silene firma</i>		VU	EN	↓
アオハコベ	ナデシコ	<i>Stellaria uchiyamana</i> var. <i>apetala</i>			EN	→

オカヒジキ	ヒユ	<i>Salsola komarovii</i>			EN	→
ヒロハマツナ	ヒユ	<i>Suaeda malacosperma</i>	VU	EN	EN	↓
ハママツナ	ヒユ	<i>Suaeda maritima</i>		NT	EN	↑
アキノギンリョウソウ	ツツジ	<i>Monotropa uniflora</i>		VU	EN	↓
リンドウ	リンドウ	<i>Gentiana scabra</i> var. <i>buergeri</i>		VU	EN	→
スナビキソウ	ムラサキ	<i>Heliotropium japonicum</i>			EN	→
カミガモソウ	オオバコ	<i>Gratiola fluviatilis</i>	EN	CR	EN	↓
シソクサ	オオバコ	<i>Limnophila chinensis</i> subsp. <i>aromatica</i>		VU	EN	↓
ゴマノハグサ	ゴマノハグサ	<i>Scrophularia buergeriana</i>	VU	EN	EN	→
ハマジンチョウ	ゴマノハグサ	<i>Myoporum bontioides</i>	VU	NT	EN	→
カイジンドウ	シソ	<i>Ajuga ciliata</i> var. <i>villosior</i>	VU	VU	EN	→
キセワタ	シソ	<i>Leonurus macranthus</i>	VU	VU	EN	→
ヤマジソ	シソ	<i>Mosla japonica</i> var. <i>japonica</i>	NT		EN	→
ミヤマナミキ	シソ	<i>Scutellaria shikokiana</i>		VU	EN	↓
ツゲモチ	モチノキ	<i>Ilex goshiensis</i>		EN	EN	↓
ホタルブクロ	キキョウ	<i>Campanula punctata</i> var. <i>punctata</i>			EN	→
ツルギキョウ	キキョウ	<i>Codonopsis javanica</i> subsp. <i>japonica</i>	VU	NT	EN	↓
ウスゲタマブキ	キク	<i>Parasenecio farfarifolius</i> var. <i>farfarifolius</i>		NT	EN	↓
ツクシアザミ (ツクシヤマアザミ)	キク	<i>Cirsium suffultum</i>			EN	→
イズハハコ (ワタナ)	キク	<i>Conyza japonica</i>	VU	NT	EN	→
ヒゴタイ	キク	<i>Echinops setifer</i>	VU	VU	EN	→
ヒメヒゴタイ	キク	<i>Saussurea pulchella</i>	VU	EN	EN	→
ゴマキ	レンブクソウ	<i>Viburnum sieboldii</i> var. <i>sieboldii</i>			EN	↓
コシアブラ	ウコギ	<i>Chengiopanax sciadophylloides</i>			EN	↑
ハクチョウゲ	アカネ	<i>Serissa japonica</i>	EN	NT	EN	新
カヤ	イチイ	<i>Torreya nucifera</i> var. <i>nucifera</i>			VU	↓
ヒツジグサ	スイレン	<i>Nympaea tetragona</i>		EN	VU	↑
ツクシアオイ	ウマノスズクサ	<i>Asarum kiusianum</i>	VU	VU	VU	→
ウンゼンカンアオイ	ウマノスズクサ	<i>Asarum unzen</i>	VU	VU	VU	↓

ミズオオバコ	トチカガミ	<i>Ottelia alismoides</i>	VU	NT	VU	→
トリゲモ	トチカガミ	<i>Najas minor</i>	VU		VU	新
オオトリゲモ	トチカガミ	<i>Najas oguraensis</i>		VU	VU	新
イトモ	ヒルムシロ	<i>Potamogeton berchtoldii</i>	NT	NT	VU	↓
ヒナノシャクジョウ	ヒナノシャクジョウ	<i>Burmannia championii</i>			VU	↓
アマナ	ユリ	<i>Amana edulis</i>		NT	VU	→
シラン	ラン	<i>Bletilla striata</i>	NT	NT	VU	↓
エビネ	ラン	<i>Calanthe discolor</i>	NT	NT	VU	↓
ギンラン	ラン	<i>Cephalanthera erecta</i>	VU	VU	VU	↓
キンラン	ラン	<i>Cephalanthera falcata</i>	VU	NT	VU	→
カキラン	ラン	<i>Epipactis thunbergii</i>		NT	VU	→
クロヤツシロラン	ラン	<i>Gastrodia pubilabiata</i>		NT	VU	↓
ツチアケビ	ラン	<i>Cyrtosia septentrionalis</i>		VU	VU	↓
アキザキヤツシロラン	ラン	<i>Gastrodia confusa</i>		NT	VU	新
ツユクサシュスラン	ラン	<i>Goodyera foliosa</i> var. <i>foliosa</i>		VU	VU	↓
ウスギムヨウラン	ラン	<i>Lecanorchis kiusiana</i>	NT		VU	↓
クモキリソウ	ラン	<i>Liparis kumokiri</i>			VU	↓
ニラバラン	ラン	<i>Microtis unifolia</i>			VU	↓
コキンバイザサ	キンバイザサ	<i>Hypoxis aurea</i>		NT	VU	→
ニシノハマカンゾウ	ススキノ	<i>Hemerocallis fulva</i> var. <i>aurantiaca</i>			VU	→
キスゲ (ユウスゲ)	ススキノ	<i>Hemerocallis citrina</i> var. <i>vespertina</i>			VU	→
オオキツネノカミソリ	ヒガンバナ	<i>Lycoris sanguinea</i> var. <i>kiushiana</i>			VU	↓
ハマタマボウキ	キジカクシ	<i>Asparagus kiusianus</i>	EN	NT	VU	→
ヤマトミクリ	ガマ	<i>Sparganium fallax</i>	NT	NT	VU	→
イトテンツキ	カヤツリグサ	<i>Bulbostylis densa</i> var. <i>capitata</i>	NT	NT	VU	新
イトハナビテンツキ	カヤツリグサ	<i>Bulbostylis densa</i>			VU	新
アワボスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex brownii</i>			VU	新
タニガワスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex forficula</i>			VU	新
ジュズスゲ	カヤツリグサ	<i>Carex ischnostachya</i> var. <i>ischnostachya</i>			VU	新

ヒメシラスゲ	カヤツリグサ	Carex mollicula			VU	→
シラコスゲ	カヤツリグサ	Carex rhizopoda			VU	↓
フサナキリスゲ	カヤツリグサ	Carex teinogyna			VU	↑
ヒメアオガヤツリ	カヤツリグサ	Cyperus extremiorientalis			VU	新
クロテンツキ	カヤツリグサ	Fimbristylis diphyloides			VU	新
マツカサススキ	カヤツリグサ	Scirpus mitsukurianus		VU	VU	↓
コシンジュガヤ	カヤツリグサ	Scleria parvula			VU	新
バイカイカリソウ	メギ	Epimedium diphyllum			VU	→
ネコノメソウ	ユキノシタ	Chrysosplenium grayanum		EN	VU	↓
ツシママンネングサ	ベンケイソウ	Sedam polytrichoides subsp. yabeanum var. yabeanum			VU	↓
ミソナオシ	マメ	Ohwia caudate			VU	新
ミヤマトベラ	マメ	Euchresta japonica			VU	→
ヒメツルアズキ	マメ	Vigna minima var. minima	EN	NT	VU	→
コバノフユイチゴ (マルバフユイチゴ)	バラ	Rubus pectinellus		NT	VU	↓
コジキイチゴ	バラ	Rubus sumatoranus			VU	↓
ムカゴイラクサ	イラクサ	Laportea bulbifera			VU	→
モクレイシ	ニシキギ	Microtropis japonica		VU	VU	→
ナガサキオトギリ	オトギリソウ	Hypericum pseudopetiolum var. kiusianum			VU	→
フユザンショウ	ミカン	Zanthoxylum armatum var. subtrifoliatum			VU	新
ヤマハタザオ	アブラナ	Arabis hirsuta			VU	↓
ジャニンジン	アブラナ	Cardamine impatiens var. impatiens			VU	↑
ユリワサビ	アブラナ	Eutrema tenue			VU	↓
サクラタデ	タデ	Persicaria conspicua			VU	↑
ハマサジ	イソマツ	Limonium tetragonum	NT		VU	↑
バイカアマチャ	アジサイ	Platycrater arguta var. arguta			VU	↓
オンツツジ	ツツジ	Rhododendron weyrichii var. weyrichii			VU	↓
オオハシカグサ	アカネ	Neanotis hirsuta var. glabra			VU	新
アオカモメズル	キョウチクトウ	Vincetoxicum ambiguum			VU	→

フナバラソウ	キョウチクトウ	Vincetoxicum atratum	VU	VU	VU	→
ホタルカズラ	ムラサキ	Lithospermum zollingeri		VU	VU	↓
オオバイボタ	モクセイ	Ligustrum ovalifolium var. ovalifolium			VU	新
シマモクセイ (ナ タオレノキ)	モクセイ	Osmanthus insularis var.insularis			VU	→
コムラサキ	シソ	Callicarpa dichotoma			VU	↓
ダンギク	シソ	Caryopteris incana	VU		VU	↓
ヒメキラソウ	シソ	Ajuga pygmaea		VU	VU	↓
ハッカ	シソ	Mentha canadensis			VU	新
ホソバヤマジソ	シソ	Mosla chinensis	VU	EN	VU	↓
コナミキ	シソ	Scutellaria guilielmii	VU	VU	VU	↓
ハマウツボ	ハマウツボ	Orobanche coerulescens	VU	NT	VU	↓
ミゾホオズキ	ハエドクソウ	Mimulus nepalensis			VU	↓
イヌタヌキモ	タヌキモ	Utricularia australis	NT	VU	VU	→
オギノツメ	キツネノマゴ	Hygrophila salicifolia			VU	↑
ヒメシオン	キク	Aster fastigiatus		NT	VU	→
ウラギク (ハマシ オン)	キク	Aster tripolium	NT	NT	VU	→
オタカラコウ	キク	Ligularia fischerii		NT	VU	↓
カノコソウ	スイカズラ	Valeriana fauriei		VU	VU	→
シラネセンキュウ	セリ	Angelica polymorpha		VU	VU	↓
アカマツ	マツ	Pinus densiflora			NT	新
フタリシズカ	センリョウ	Chloranthus serratus			NT	→
センリョウ	センリョウ	Sarcandra glabra			NT	→
ハンゲショウ (カ タシログサ)	ドクダミ	Saururus chinensis			NT	→
ヤマトウミヒルモ	トチカガミ	Halophila nipponica		NT	NT	↓
コアマモ	アマモ	Zostera japonica		NT	NT	↓
フトヒルムシロ	ヒルムシロ	Potamogeton fryeri			NT	→
ツクシショウジョ ウバカマ	シュロソウ	Heloniopsis orientalis var. breviscapa			NT	↓
サイハイラン	ラン	Cremastra appendiculata var.variabilis			NT	新
タシロラン	ラン	Epipogium roseum	NT	NT	NT	↓

キンバイザサ	キンバイザサ	Curculigo orchiooides			NT	新
キジカクシ	キジカクシ	Asparagus schoberioides			NT	↓
エナシヒゴクサ	カヤツリグサ	Carex aphanolepis			NT	新
コウボウムギ	カヤツリグサ	Carex kobomugi			NT	↓
シカクイ	カヤツリグサ	Eleocharis wichuriae var.wichuriae			NT	→
アブラガヤ	カヤツリグサ	Scirpus wichurai			NT	↓
アイアシ	イネ	Phacelurus latifolius			NT	→
フウロケマン	ケシ	Corydalis pallida var.pallida			NT	→
ヤマモガシ	ヤマモガシ	Helicia cochinchinensis			NT	→
オオチャルメルソウ	ユキノシタ	Mitella japonica			NT	→
ジンジソウ	ユキノシタ	Saxifraga cortusaefolia var.cortusaefolia			NT	→
タイトゴメ	ベンケイソウ	Sedum japonicum subsp. Oryzifolium			NT	→
ヒロハネム	マメ	Albizia julibrissin var. glabrior		NT	NT	→
カワラケツメイ	マメ	Chamaecrista nomame			NT	→
シバハギ	マメ	Desmodium heterocarpon			NT	→
ヒメノハギ	マメ	Codariocalyx microphyllum			NT	→
ハカマカズラ	マメ	Phanera japonica			NT	→
マキエハギ	マメ	Lespedeza virgata			NT	→
オオクマヤナギ (ケクマヤナギ)	クロウメモドキ	Berchemia magna			NT	↓
ヒメウワバミソウ	イラクサ	Elatostema japonicum			NT	↓
ナラガシワ	ブナ	Quercus aliena			NT	↓
ハンノキ	カバノキ	Alnus japonica		NT	NT	↓
スズメウリ	ウリ	Melothria japonica			NT	→
ミソハギ	ミソハギ	Lythrum anceps			NT	新
エゾミソハギ	ミソハギ	Lythrum salicaria			NT	→
マツカゼソウ	ミカン	Boenninghausenia japonica var.japonica			NT	↓
ニガキ	ニガキ	Picrasma quassioides			NT	→
カナビキソウ	ビャクダン	Thesium chinense			NT	→
タニソバ	タデ	Persicaria nepalensis			NT	↓

ボロボロノキ	ボロボロノキ	Schoepfia jasminodora			NT	→
ヤナギヌカボ	タデ	Persicaria foliosa var. paludicola		NT	NT	新
ゲンカイミミナグサ	ナデシコ	Cerastium fischerianum var. molle	NT	NT	NT	→
カワラナデシコ	ナデシコ	Dianthus superbus var. longicalycinus			NT	→
モクタチバナ	サクラソウ	Ardisia sieboldii			NT	→
リュウキュウマメガキ	カキノキ	Diospyros japonica			NT	→
シロバイ	ハイノキ	Symplocos lancifolia			NT	新
クロバイ	ハイノキ	Symplocos prunifolia var. prunifolia			NT	→
サルナシ	マタタビ	Actinidia arguta var. arguta			NT	新
ソナレムグラ	アカネ	Hedyotis strigulosa var. coreana			NT	→
イヨカズラ	キョウチクトウ	Cynanchum japonicum			NT	→
スズサイコ	キョウチクトウ	Vincetoxicum pycnostelma	NT		NT	→
ガガイモ	キョウチクトウ	Metaplexis japonica			NT	→
ココモメズル	キョウチクトウ	Tylophora floribunda			NT	新
ノアサガオ	ヒルガオ	Ipomoea indica			NT	→
マルバハダカホオズキ	ナス	Tubocapsicum anomalum var. obtusum			NT	新
カワヂシャ	オオバコ	Veronica undulata	NT		NT	→
ヤマトウバナ	シソ	Clinopodium multicaule var. multicaule			NT	新
アキノタムラソウ	シソ	Salvia japonica var. japonica			NT	↓
クマツヅラ	クマツヅラ	Verbena officinalis			NT	→
ナガサキシヤジン	キキョウ	Adenophora triphylla var. triphylla			NT	新
カワラヨモギ	キク	Artemisia capillacea			NT	→
タウコギ	キク	Bidens tripartita var. tripartit			NT	→
ヤナギアザミ	キク	Cirsium lineare			NT	→
オカオグルマ	キク	Senecio integrifolia subs. kirilowii			NT	→
オミナエシ	スイカズラ	Patrinia scabiosaefolia			NT	→
ハマボウフウ	セリ	Glehnia littoralis			NT	↓
セトヤナギスブタ	トチカガミ	Blyxa alternifolia	EN		DD	新
ミズトンボ	ラン	Habenaria sagittifera	VU	VU	DD	新

クロムヨウラン	ラン	<i>Lecanorchis nigricans</i> var. <i>nigricans</i>			DD	
ヒゲシバ	イネ	<i>Sporobolus japonicus</i>		NT	DD	新
カリヤスモドキ	イネ	<i>Miscanthus oligostachyus</i> var. <i>oligostachyus</i>			DD	
ウキシバ	イネ	<i>Pseudoraphis sordada</i>			DD	
ナガサキマンネン グサ	ベンケイソウ	<i>Sedum nagasakianum</i>			DD	
ハチジョウクサイ チゴ	バラ	<i>Rubus nishimuranus</i>			DD	
ナンゴククマヤナ ギ	クロウメモドキ	<i>Berchemia racemosa</i> var. <i>luxurians</i>			DD	新
コケミズ	イラクサ	<i>Pilea peploides</i> var. <i>peploides</i>			DD	
シマヒメタデ	タデ	<i>Persicaria tenella</i>		VU	DD	
ウリノキ	ミズキ	<i>Alangium platanifolium</i> var. <i>trilobum</i>			DD	
オオヤマジソ	シソ	<i>Mosla japonica</i> var. <i>hadae</i>	NT	VU	DD	
ヒメナミキ	シソ	<i>Scutellaria dependens</i>		EN	DD	新
サギゴケ	サギゴケ	<i>Mazus miquelii</i>			DD	
シンウド	セリ	<i>Angelica pubescens</i> var. <i>pubescens</i>			DD	新

・植物種 [シダ植物]

(1) 絶滅の恐れのある生物種数の増減

絶滅 (EX) : 0 種から変化なし

絶滅危惧 I A 類 (CR) : 18 種から 11 種へ減少

絶滅危惧 I B 類 (EN) : 9 種から 15 種へ増加

絶滅危惧 II 類 (VU) : 7 種から 23 種へ増加

準絶滅危惧種 (NT) : 10 種から 8 種へ減少

情報不足 (DD) : 1 種から変化なし

(2) 絶滅及び IA 類の中で特に危機的となった主な理由

○絶滅種

なし

○絶滅危惧 I A 類の中で特に危機的な種

・アカウキクサ (アカウキクサ科) : 近年外来のアカウキクサが増加し、在来種のアカウキクサに置き換わり、生育地が増加している。一方在来種のアカウキクサは減少を続け最近は見ることが出来なくなり危機的な状況が続いている。

・イヌガンソク (メシダ科) : 市内の生育地は数カ所あり 9 個体を確認していたが、減少が続いていた。国有林の作業林道の新設が減少に追い打ちを掛け、現在は 1 カ所の 1 個体しか残っておらず危機的な状況である。

- ・オトコシダ (オシダ科) : 市内の生育地は1カ所で1個体である。心許ないので随分と探したが他には見つけれない。また、今回のレッドリスト改訂に当たり生育地を再調査したが記録していた1個体も確認できなかった。絶滅の可能性はある。
- ・ツクシヤブソテツ (オシダ科) : 市内の生育地は1カ所で1個体だった。大雨の際に流出して消滅した。その後の10年間の調査で再発見出来ず絶滅の可能性はある。

(3) レッドリスト (シダ植物)

和名	科名	学名	環境省 カテゴリー	長崎県 カテゴリー	佐世保市 カテゴリー	新旧 対照
アカウキクサ	サンショウモ	<i>Azolla pinnata</i> subsp. <i>asiatica</i>	EN	EN	CR	→
タキミシダ	イノモトソウ	<i>Antrophyum obovatum</i>	EN	EN	CR	新
クルマシダ	チャセンシダ	<i>Asplenium wrightii</i>			CR	新
サトメシダ	イワデンダ	<i>Athyrium deltoideifrons</i>			CR	新
サカバサトメシダ	イワデンダ	<i>Athyrium palustre</i>	VU	VU	CR	新
イヌガンソク	コウヤワラビ	<i>Onoclea orientalis</i>		VU	CR	→
オトコシダ	オシダ	<i>Arachniodes yoshinagae</i>		EN	CR	→
ヒロハヤブソテツ	オシダ	<i>Cyrtomium macrophyllum</i>		EN	CR	→
ツクシヤブソテツ	オシダ	<i>Cyrtomium macrophyllum</i> var. <i>tukusicola</i>		EN	CR	→
ヌカイタチシダ	オシダ	<i>Dryopteris gymnosora</i> var. <i>gymnosora</i>			CR	→
ワカナシダ	オシダ	<i>Dryopteris kuratae</i>		EN	CR	新
イヌドクサ	トクサ	<i>Equisetum ramosissimum</i>		VU	EN	↓
ヒメハイホラゴケ	コケシノブ	<i>Vandenboschia nipponica</i>			EN	新
ヒメウラジロ	イノモトソウ	<i>Cheilanthes argentea</i>	VU	NT	EN	新
サツマハチジョウシダ	イノモトソウ	<i>Pteris satsumana</i>	VU	EN	EN	新
ヤクシマハチジョウシダ	イノモトソウ	<i>Pteris yakuinsularis</i>	VU	VU	EN	新
ナンゴクホウビシダ	チャセンシダ	<i>Hymenasplenium murakami-hatanakae</i>			EN	新
アミシダ	ヒメシダ	<i>Thelypteris griffithii</i> var. <i>wilfordii</i>		VU	EN	↓
セイタカシケシダ	イワデンダ	<i>Deparia dimorphophylla</i>			EN	新
ムクゲシケシダ	イワデンダ	<i>Deparia kiusiana</i>			EN	新
オオヒメワラビ	イワデンダ	<i>Deparia okuboana</i>			EN	↑
オニヒカゲワラビ	イワデンダ	<i>Diplazium nipponicum</i>			EN	↓

オオクジャクシダ	オシダ	<i>Dryopteris dickinsii</i>		EN	EN	新
シノブ	シノブ	<i>Davallia mariesii</i>			EN	→
ヒロハクリハラン	ウラボシ	<i>Neocheiropteris ensata</i> var. <i>platyphylla</i>			EN	新
ヤノネシダ	ウラボシ	<i>Lepidomicrosorium</i> <i>buergerianum</i>		VU	EN	新
マツバラシ	マツバラシ	<i>Psilotum nudum</i>	NT	NT	VU	↓
シロヤマゼンマイ	ゼンマイ	<i>Osmunda banksiifolia</i>			VU	↓
ツルホラゴケ	コケシノブ	<i>Vandenboschia auriculata</i>		VU	VU	↓
スジヒトツバ	ヤブレガサウラボシ	<i>Cheiropleuria integrifolia</i>		VU	VU	↓
デンジソウ	デンジソウ	<i>Marsilea quadrifolia</i>	VU	VU	VU	→
エダウチホングウシダ	ホングウシダ	<i>Lindsaea chienii</i>		NT	VU	↓
ホングウシダ	ホングウシダ	<i>Osmolindsaea odorata</i>		EN	VU	↓
ハマホラシノブ	ホングウシダ	<i>Sphenomeris biflora</i>			VU	↓
アイコハチジョウシダ	イノモトソウ	<i>Pteris laurisilvicola</i>		VU	VU	新
ホウライシダ	イノモトソウ	<i>Adiantum capillus-veneris</i>			VU	↓
ヒメミズワラビ	イノモトソウ	<i>Ceratopteris gaudichaudii</i> var. <i>vulgaris</i>		EN	VU	↑
コウザキシダ	チャセンシダ	<i>Asplenium ritoense</i>			VU	↓
イヌチャセンシダ	チャセンシダ	<i>Asplenium tripteropus</i>			VU	新
カラクサイヌワラビ	イワデンダ	<i>Athyrium clivicola</i>			VU	新
ツクシイヌワラビ	イワデンダ	<i>Athyrium kuratae</i>			VU	新
ハクモウイノデ (ミヤマシケシダ)	イワデンダ	<i>Deparia pycnosora</i>			VU	→
ホソバノコギリシダ	イワデンダ	<i>Diplazium fauriei</i>			VU	新
サイコクベニシダ	オシダ	<i>Dryopteris championii</i>			VU	新
ツクシイワヘゴ	オシダ	<i>Dryopteris commixta</i>			VU	新
ツヤナシイノデ	オシダ	<i>Polystichum ovatopaleaceum</i> var. <i>ovatopaleaceum</i>			VU	↓
ヒメカナワラビ	オシダ	<i>Polystichum tsus-simense</i> var. <i>tsus-simense</i>			VU	新

イワヤナギシダ	ツルキジノオ	Loxogramme salicifolia			VU	↓
コウラボシ	シノブ	Lepisorus uchiyamae			VU	→
ナツノハナワラビ	ハナヤスリ	Botrychium virginianum			NT	↓
ウチワゴケ	コケシノブ	Crepidomanes minutum			NT	→
シンラン	イノモトソウ	Haplopteris flexuosa			NT	↓
コバノヒノキシダ	チャセンシダ	Asplenium sarelii			NT	新
イブキシダ	ヒメシダ	Thelypteris esquirolii var. glabrata			NT	↓
ハコネシケチシダ	イワデンタ	Cornopteris christenseniana			NT	新
ハカタシダ	オシダ	Arachniodes simplicior			NT	新
オオイワヒトデ	ウラボシ	Colysis pothifolia			NT	↓
フモトシケシダ	イワデンダ	Deparia pseudoconilii var. pseudoconii			DD	

・植物種 [蘚苔類]

(1) 絶滅の恐れのある生物種数の増減

絶滅 (EX) : 0 種から変化なし

絶滅危惧 I A 類 (CR) : 0 種から 2 種へ増加

絶滅危惧 I B 類 (EN) : 3 種から 0 種へ減少

絶滅危惧 II 類 (VU) : 0 種から 1 種へ増加

準絶滅危惧種 (NT) : 0 種から変化なし

情報不足 (DD) : 0 種から変化なし

(2) 絶滅及び IA 類の中で特に危機的となった主な理由

○絶滅種

なし

○絶滅危惧 I A 類の中で特に危機的な種

・ウキゴケ (カズノゴケ科)

市内の生育地は 4 カ所あったが、減少が続き確実な生育地が無い状況が続いている。生育環境の条件により、再発生する可能性があるため監視中であり、危機的な状況である。

(3) レッドリスト

和名	科名	学名	環境省 カテゴリー	長崎県 カテゴリー	佐世保市 カテゴリー	新旧 対照
ウキゴケ	ウキゴケ	Riccia fluitans		NT	CR	↑
オオミズゴケ	ミズゴケ	Sphagnum palustre L.	NT	NT	CR	↑
イチョウウキゴケ	ウキゴケ	Riccocarpos natans (L.) Corda	NT	NT	VU	↓

・植物種 [藻類]

(1) 絶滅の恐れのある生物種数の増減

- 絶滅 (EX) : 0 種から変化なし
- 絶滅危惧 I A 類 (CR) : 1 種から 2 種へ増加
- 絶滅危惧 I B 類 (EN) : 1 種から変化なし
- 絶滅危惧 II 類 (VU) : 3 種から 2 種へ減少
- 準絶滅危惧種 (NT) : 4 種から 3 種へ減少
- 情報不足 (DD) : 0 種から変化なし

(2) 絶滅及び IA 類の中で特に危機的となった主な理由

○絶滅種

なし

○絶滅危惧 I A 類の中で特に危機的な種

・カワモズク (カワモズク科)

市内の生育地は 18 カ所あったが減少が続き、今回のレッドリスト改訂に伴う調査では 1 カ所の確認しか出来ずかなり危機的な状況である。

*参考文献：長崎県植物誌 1980 外山三郎 長崎県生物学会 長崎県

(3) レッドリスト

和名	科名	学名	環境省 カテゴリー	長崎県 カテゴリー	佐世保市 カテゴリー	新旧 対照
ホソエガサ	カサノリ	Acetabularia caliculus	CR+EN	DD	CR	→
カワモズク	カワモズク	Batrachospermum gelatinosum	VU	NT	CR	新
アサクサノリ	ウシケノリ	Neopyropia tenera	CR+EN	EN	EN	→
アオカワモズク	カワモズク	Virescentia helminthosum	NT	NT	VU	→
シャジクモ	シャジクモ	Chara braunii	VU	NT	VU	→
アヤギヌ	コノハノリ	Caloglossa continua	NT	NT	NT	→
ホソアヤギヌ	コノハノリ	Caloglossa ogasawaraensis	NT	NT	NT	→
タニコケモドキ	フジマツモ	Bostrychia simpliciuscula	NT	NT	NT	→

・哺乳類

(1) 絶滅の恐れのある生物種数の増減

- 絶滅 (EX) : 0 種から変化なし
- 絶滅危惧 I A 類 (CR) : 5 種から 1 種へ減少
- 絶滅危惧 I B 類 (EN) : 1 種から 0 種へ減少
- 絶滅危惧 II 類 (VU) : 2 種から 4 種へ増加
- 準絶滅危惧種 (NT) : 1 種から変化なし
- 情報不足 (DD) : 1 種から 3 種へ増加

(2) 絶滅及び IA 類の中で特に危機的となった主な理由

- 絶滅種
なし
- 絶滅危惧 IA 類の中で特に危機的な種
なし

(3) レッドリスト

和名	科名	学名	環境省 カテゴリー	長崎県 カテゴリー	佐世保市 カテゴリー	新旧 対照
スナメリ	ネズミイルカ	<i>Neophocaena phocaenoides</i>		EN	CR	→
コキクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus cornutus</i>		NT	VU	↓
キツネ	イヌ	<i>Vulpes vulpes</i>		NT	VU	↓
キクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>		NT	VU	→
カヤネズミ	ネズミ	<i>Micromys minutus</i>		NT	VU	→
イタチ	イタチ	<i>Mustela itatsi</i>		DD	NT	→
モモジロコウモリ	ヒナコウモリ	<i>Myotis macrodactylus</i>		NT	DD	
ユビナガコウモリ	ヒナコウモリ	<i>Miniopterus fuliginosus</i>		NT	DD	
スミスネズミ	ネズミ	<i>Eothenomys smithi</i>		DD	DD	

・鳥類

(1) 絶滅の恐れのある生物種数の増減

- 絶滅 (EX) : 0 種から変化なし
- 絶滅危惧 IA 類 (CR) : 26 種から 19 種へ減少
- 絶滅危惧 IB 類 (EN) : 15 種から変化なし
- 絶滅危惧 II 類 (VU) : 13 種から 12 種へ減少
- 準絶滅危惧種 (NT) : 36 種から 39 種へ増加
- 情報不足 (DD) : 9 種から 11 種へ増加

(2) 絶滅及び IA 類の中で特に危機的となった主な理由

- 絶滅種
なし
- 絶滅危惧 IA 類の中で特に危機的な種
 - ・ミゾゴイ
市内では 1 カ所、繁殖期に度々確認されている。もともと市内では数少ない種である。
 - ・サシバ
以前は市内で数カ所繁殖が確認されていたが、現在は随分減少している。森林開発や餌場となる水田の耕作放棄が原因と考えられる。
 - ・アオバズク
営巣に適した樹洞がある木が減り、周囲の開発によって現在、島嶼で確認されるだけになった。

・アカショウビン

渡りの時期には市内各所で鳴き声が観察されているが繁殖期の観察は北部の山間部に限られる。

・ヤマセミ

市内では絶滅した可能性が高いと考えられていたが、昨秋に東部の河川で 1 個体が観察されている。護岸工事や川の周囲の開発により餌となる魚の減少や営巣地の消滅が原因と考えられる。

・ヤイロチョウ

北部の山間部や島嶼で繁殖期に観察できる。もともと少ない種のため開発等の影響を受けやすい。

・カワガラス

北部河川の中上流域部に少数が生息している。河川工事や宅地開発の影響を受けやすい。

(3) レッドリスト

和名	科名	学名	環境省 カテゴリー	長崎県 カテゴリー	佐世保市 カテゴリー	新旧 対照
ミゾゴイ	サギ	<i>Gorsachius goisagi</i>	VU	VU	CR	→
カラシラサギ	サギ	<i>Egretta eulophotes</i>	NT	CR	CR	→
ヘラサギ	トキ	<i>Platalea leucorodia</i>	DD	EN	CR	→
ケリ	チドリ	<i>Vanellus cinereus</i>	DD	DD	CR	→
コシヤクシギ	シギ	<i>Numenius minutus</i>	EN	CR	CR	→
ダイシヤクシギ	シギ	<i>Numenius arquata</i>		CR	CR	→
ホウロクシギ	シギ	<i>Numenius madagascariensis</i>	VU	VU	CR	→
ズグロカモメ	カモメ	<i>Larus saundersi</i>	VU	VU	CR	→
サシバ	タカ	<i>Butastur indicus</i>	VU	VU	CR	→
アオバズク	フクロウ	<i>Ninox scutulata</i>		VU	CR	→
アカショウビン	カワセミ	<i>Halcyon coromanda</i>		VU	CR	→
ヤマセミ	カワセミ	<i>Ceryle lugubris</i>		CR	CR	→
ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	VU	VU	CR	→
ヤイロチョウ	ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>	EN	CR	CR	→
サンコウチョウ	カササギヒタキ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>		VU	CR	→
アカモズ	モズ	<i>Lanius cristatus</i>	EN	CR	CR	→
カワガラス	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>		VU	CR	→
ウミスズメ	ウミスズメ	<i>Synthliboramphus antiquus</i>	CR	CR	CR	新
チゴモズ	モズ	<i>Lanius tigrinus</i>	CR	CR	CR	新
ツクシガモ	カモ	<i>Tadorna tadorna</i>	VU	VU	EN	↓

ツバメチドリ	ツバメチドリ	<i>Glareola maldivarum</i>	VU	EN	EN	↓
トモエガモ	カモ	<i>Anas formosa</i>	VU	NT	EN	→
カラスバト	ハト	<i>Columba janthina</i>	NT	NT	EN	→
クロサギ	サギ	<i>Egretta sacra</i>		NT	EN	→
アカアシシギ	シギ	<i>Tringa totanus</i>	VU	CR	EN	→
タマシギ	タマシギ	<i>Rostratula benghalensis</i>	VU	NT	EN	→
カンムリウミスズ メ	ウミスズメ	<i>Synthliboramphus wumizusume</i>	VU	VU	EN	→
ツミ	タカ	<i>Accipiter gularis</i>		NT	EN	→
オオタカ	タカ	<i>Accipiter gentilis</i>	NT	NT	EN	→
サンショウクイ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	VU	VU	EN	→
キクイタダキ	キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>		EN	EN	→
ムギマキ	ヒタキ	<i>Ficedula mugimaki</i>			EN	→
ノジコ	ホオジロ	<i>Emberiza sulphurata</i>	NT	NT	EN	→
クロツラヘラサギ	トキ	<i>Platalea minor</i>	EN	EN	EN	新
キビタキ	ヒタキ	<i>Ficedula narcissina</i>		VU	VU	↓
アカヤマドリ	キジ	<i>Syrnaticus soemmerringii soemmerringii</i>	NT	NT	VU	→
オカヨシガモ	カモ	<i>Anas strepera</i>		NT	VU	→
アカガシラサギ	サギ	<i>Ardeola bacchus</i>		NT	VU	→
クイナ	クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>		VU	VU	→
カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>			VU	→
キョウジョシギ	シギ	<i>Arenaria interpres</i>		NT	VU	→
ハイタカ	タカ	<i>Accipiter nisus</i>	NT	NT	VU	→
オオヨシキリ	ヨシキリ	<i>Acrocephalus arundinaceus</i>			VU	→
ミソサザイ	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>		NT	VU	→
クロツグミ	ヒタキ	<i>Turdus cardis</i>			VU	→
ヒクイナ	クイナ	<i>Porzana fusca</i>	NT	NT	VU	↑
セイタカシギ	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus</i>	VU	VU	NT	↓
ハンビロガモ	カモ	<i>Anas clypeata</i>		NT	NT	↓
ハマシギ	シギ	<i>Calidris alpina</i>	NT	CR	NT	↓
オンドリ	カモ	<i>Aix galericulata</i>	DD	VU	NT	→
ヨシガモ	カモ	<i>Anas falcata</i>		NT	NT	→
カンムリカイツブリ	カイツブリ	<i>Podiceps cristatus</i>			NT	→

チュウサギ	サギ	<i>Egretta intermedia</i>	NT	NT	NT	→
マナヅル	ツル	<i>Grus vipio</i>	VU	VU	NT	→
ナベヅル	ツル	<i>Grus monacha</i>	VU	NT	NT	→
バン	クイナ	<i>Gallinula chloropus</i>			NT	→
ムナグロ	チドリ	<i>Pluvialis fulva</i>		NT	NT	→
イカルチドリ	チドリ	<i>Charadrius dubius</i>		NT	NT	→
コチドリ	チドリ	<i>Charadrius dubius</i>		VU	NT	→
シロチドリ	チドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>	VU	CR	NT	→
コアオアシシギ	シギ	<i>Tringa stagnatilis</i>		VU	NT	→
クサシギ	シギ	<i>Tringa ochropus</i>			NT	→
タカブシギ	シギ	<i>Tringa glareola</i>	VU	VU	NT	→
トウネン	シギ	<i>Calidris ruficollis</i>		CR	NT	→
ミサゴ	タカ	<i>Pandion haliaetus</i>	NT	NT	NT	→
ハチクマ	タカ	<i>Pernis apivorus orientalis</i>	NT	NT	NT	→
キュウシュウフクロウ	フクロウ	<i>Strix uralensis fuscescens</i>		NT	NT	→
カワセミ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>			NT	→
カゴシマアオゲラ	キツツキ	<i>Picus awokera horii</i>			NT	→
チョウゲンボウ	ハヤブサ	<i>Falco tinnunculus</i>			NT	→
カケス	カラス	<i>Garrulus glandarius</i>		DD	NT	→
ツリスガラ	ツリスガラ	<i>Remiz pendulinus</i>			NT	→
ヤブサメ	ウグイス	<i>Urosphena squameiceps</i>			NT	→
トラツグミ	ヒタキ	<i>Zoothera dauma</i>			NT	→
ルリビタキ	ヒタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>			NT	→
オオルリ	ヒタキ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>			NT	→
シメ	アトリ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>			NT	→
オオジュリン	ホオジロ	<i>Emberiza schoeniclus</i>			NT	→
タゲリ	チドリ	<i>Vanellus vanellus</i>			NT	↑
キリアイ	シギ	<i>Limicola falcinellus</i>		CR	NT	↑
オジロトウネン	シギ	<i>Calidris temminckii</i>			NT	新
ウズラシギ	シギ	<i>Calidris acuminata</i>		CR	NT	新
サルハマシギ	シギ	<i>Calidris ferruginea</i>		CR	NT	新
ニューナイスズメ	スズメ	<i>Passer rutilans</i>		DD	NT	新

ユリカモメ	カモメ	Larus ridibundus		NT	NT	新
ヨシゴイ	サギ	Ixobrychus sinensis	NT	DD	DD	
ヨタカ	ヨタカ	Caprimulgus indicus	NT	CR	DD	
ヤマシギ	シギ	Scolopax rusticola		NT	DD	
マガン	カモ	Anser albifrons	NT	DD	DD	
ササゴイ	サギ	Butorides striatus		NT	DD	
セグロカッコウ	カッコウ	Cuculus micropterus			DD	
コマドリ	ヒタキ	Luscinia akahige			DD	
コルリ	ヒタキ	Erithacus cyane			DD	
ヒシクイ	カモ	Anser fabalis	VU	DD	DD	新
ツツドリ	カッコウ	Cuculus optatus			DD	新
カササギ	カラス	Pica pica		DD	DD	新

・爬虫類

(1) 絶滅の恐れのある生物種数の増減

絶滅 (EX) : 0 種から変化なし

絶滅危惧 I A 類 (CR) : 1 種から変化なし

絶滅危惧 I B 類 (EN) : 0 種から変化なし

絶滅危惧 II 類 (VU) : 0 種から 2 種へ増加

準絶滅危惧種 (NT) : 2 種から 1 種へ減少

情報不足 (DD) : 1 種から 2 種へ増加

(2) 絶滅及び IA 類の中で特に危機的となった主な理由

○絶滅種

なし

○絶滅危惧 I A 類の中で特に危機的な種

・ニホンイシガメ (イシガメ科)

市内の中心部を流れる河川の下流域で 1 個体が確認 (撮影) されているが、これらが野生個体か飼育個体の逸出かは不明である。ミシシippiaアカミミガメの爆発的な増加により本種に様々な圧力を与えていると考えられ、極めて危機的な状況である。

(3) レッドリスト

和名	科名	学名	環境省 カテゴリー	長崎県 カテゴリー	佐世保市 カテゴリー	新旧 対照
ニホンイシガメ	イシガメ	<i>Mauremys japonica</i>	NT	EN	CR	→
タカチホヘビ	ナミヘビ	<i>Achalinus spinalis</i>		NT	VU	↑
ニシヤモリ	ヤモリ	<i>Gekko sp.</i>		NT	VU	新
シロマダラ	ナミヘビ	<i>Lycodon orientalis</i>		NT	NT	→
ニホンスッポン	スッポン	<i>Pelodiscus sinensis</i>	DD	DD	DD	
アカウミガメ	ウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	EN	EN	DD	新

・両生類

(1) 絶滅の恐れのある生物種数の増減

絶滅 (EX) : 0 種から変化なし

絶滅危惧 IA 類 (CR) : 2 種から変化なし

絶滅危惧 IB 類 (EN) : 1 種から 2 種へ増加

絶滅危惧 II 類 (VU) : 3 種から 4 種へ増加

準絶滅危惧種 (NT) : 3 種から 1 種へ減少

情報不足 (DD) : 0 種から変化なし

(2) 絶滅及び IA 類の中で特に危機的となった主な理由

○絶滅種

なし

○絶滅危惧 IA 類の中で特に危機的な種

- ・ブチサンショウウオ (サンショウウオ科)

本市では国見山山系にのみ生息するが、イノシシによる産卵場所の掘り返しで、卵塊が見られなくなった。また、アライグマも産卵地で餌を漁っているので捕食している可能性があり、極めて危険な状況にある。

- ・トノサマガエル (アカガエル科)

本市ではこれまで、主に山間部の水田付近に生息しており、産卵場所は水田である。近年稲作の方法が変化し、間断冠水により幼生が生息する時期に水を落とす水田が多く、幼生の時代を越えることが出来ず減少が続いた。この結果ここ数年姿が見られなくなり、極めて深刻な状況である。なお、減少要因はネオニコチノイド系農薬の影響も考えられる。

(3) レッドリスト

和名	科名	学名	環境省 カテゴリー	長崎県 カテゴリー	佐世保市 カテゴリー	新旧 対照
ブチサンショウウオ	サンショウウオ	<i>Hynobius naevius</i>	EN	EN	CR	→
トノサマガエル	アカガエル	<i>Pelophylax nigromaculatus</i>	NT	CR	CR	→
カジカガエル	アオガエル	<i>Buergeria buergeri</i>		NT	EN	→
ツチガエル	アカガエル	<i>Glandirana rugosa</i>		NT	EN	新
カスミサンショウウオ	サンショウウオ	<i>Hynobius nebulosus</i>	VU	VU	VU	→
ニホンヒキガエル	ヒキガエル	<i>Bufo japonicus japonicus</i>		NT	VU	→
ヤマアカガエル	アカガエル	<i>Rana ornativentris</i>		EN	VU	→
ニホンアカガエル	アカガエル	<i>Rana japonica</i>		VU	VU	↑
タゴガエル	アカガエル	<i>Rana tagoi</i>			NT	→

・淡水魚類

(1) 絶滅の恐れのある生物種数の増減

絶滅 (EX) : 1 種から変化なし

絶滅危惧 IA 類 (CR) : 4 種から変化なし

絶滅危惧 IB 類 (EN) : 5 種から 3 種へ減少

絶滅危惧 II 類 (VU) : 2 種から 4 種へ増加

準絶滅危惧種 (NT) : 8 種から 7 種へ減少

情報不足 (DD) : 0 種から変化なし

絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) : 1 種から変化なし

(2) 絶滅及び IA 類の中で特に危機的となった主な理由

○絶滅種

・アリアケギバチ

1968 年に採集された個体が写真で残されており、生息していたことは確実である。昭和 42 年の水害後の、災害復旧工事以後に確認できておらず絶滅とした。

○絶滅危惧 IA 類の中で特に危機的な種

・アブラボテ

20 年前には多数が生息していた河川において、近年姿が見られなくなっている。ニッポンバラタナゴ、イトモロコと同じ河川に生息しており、本種はニッポンバラタナゴと同様にイシガイ科の 2 枚貝に産卵する。産卵母貝の調査では極めて個体数が少ないので、これらの生息条件が悪化している可能性があり、将来的な種の維持はかなり厳しいと考えられる。

・ニッポンバラタナゴ

市内には3カ所の生息地がある。生息環境は1カ所が圃場の用水路で、2カ所が河川（準用河川と2級河川）である。

用水路では本種が発見された当時（1998年）は多数生息していたが、ここ10年近くは極希にしか確認できず最近の調査では確認できない。圃場にはスクミリンゴガイが多く稲作に影響がでることから、過去には圃場に魚毒性の強い椿アブラカスが大規模に投入されておりこれが個体数の激減の要因のひとつと考えられる。また、最近では市販の農薬が使われているが、産卵母貝であるイシガイ科に対する影響は考慮されておらず、これも本種の減少に関わっていることが予想される。

河川の1カ所（準用河川）でも本種の個体数は比較的多かったが、急激に減少した。最近の調査で大量のカムルチーの幼魚が確認されており、これによる食害が本種の生存に大きく影響しているものと思われる。

2級河川では個体数は少ないものの確実に生息している。しかし、産卵母貝がなかなか見つからず、将来的な種の維持はかなり厳しいと考えられる。

・イトモロコ

20年前には普通に生息していた河川において、ここ数年姿が見られなくなっている。生息している河川の環境が悪化してきた可能性がある。本種は水質の悪化には比較的強い種であるが、かなり危険な状況であると考えられる。

(3) レッドリスト

和名	科名	学名	環境省 カテゴリー	長崎県 カテゴリー	佐世保市 カテゴリー	新旧 対照
アリアケギバチ	ギギ	<i>Tachysurus aurantiacus</i>	VU	EN	EX	→
アブラボテ	コイ	<i>Tanakia limbata</i>	NT	EN	CR	→
ニッポンバラタナゴ	コイ	<i>Rhodeus ocellatus kurumeus</i>	CR	CR	CR	→
ヤマトシマドジョウ	ドジョウ	<i>Cobitis matsubarae</i>	VU	VU	CR	→
イトモロコ	コイ	<i>Squalidus gracilis</i>		EN	CR	↑
ムギツク	コイ	<i>Pungtungia herzi</i>		NT	EN	→
ドジョウ	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>	NT	NT	EN	→
トビハゼ	ハゼ	<i>Periophthalmus modestus</i>	NT	EN	EN	→
クボハゼ	ハゼ	<i>Gymnogobius scrobiculatus</i>	EN		VU	↓
カマツカ	コイ	<i>Pseudogobio esocinus</i>		NT	VU	→
シロウオ	ハゼ	<i>Leucopsarion petersii</i>	VU	NT	VU	→
チクゼンハゼ	ハゼ	<i>Gymnogobius uchidai</i>	VU	VU	VU	新

ニホンウナギ	ウナギ	<i>Anguilla japonica</i>	EN		NT	↓
アユ	アユ	<i>Plecoglossus altivelis</i>			NT	→
モツゴ	コイ	<i>Pseudorasbora parva</i>			NT	→
ナマズ	ナマズ	<i>Silurus asotus</i>			NT	→
ミナミメダカ	メダカ	<i>Oryzias latipes</i>	VU	NT	NT	→
オオヨシノボリ	ハゼ	<i>Rhinogobius fluviatilis</i>		NT	NT	→
マサゴハゼ	ハゼ	<i>Pseudogobius masago</i>	VU		NT	新
タカハヤ	コイ	<i>Phoxinus oxycephalus</i>		LP (宇久島)	LP (宇久島)	→

・昆虫類

(1) 絶滅の恐れのある生物種数の増減

絶滅 (EX) : 1 種から 2 種へ増加

絶滅危惧 I A 類 (CR) : 25 種から 24 種へ減少

絶滅危惧 I B 類 (EN) : 11 種から 14 種へ増加

絶滅危惧 II 類 (VU) : 31 種から 35 種へ増加

準絶滅危惧種 (NT) : 39 種から 31 種へ減少

情報不足 (DD) : 4 種から 7 種へ増加

(2) 絶滅及び IA 類の中で特に危機的となった主な理由

○絶滅種

- ・ハッチョウトンボ・ベッコウトンボ

ともに佐世保市内での生息環境が激減し、生息の可能性が低いと判断。

○絶滅危惧 I A 類の中で特に危機的な種

- ・セダカコブヤハズカミキリ

唯一の生息域である世知原町国見山での個体数の減少が考えられる。マニアによる乱獲も指摘されている。

- ・ヒメボタル

生息域である里山的環境の減少による生息の危機に瀕している。

- ・ゲンゴロウ

これまで確認できなかったゲンゴロウが佐世保市内で発見されたため絶滅危惧 I A 類 (CR) に指定。

(3) レッドリスト

和名	科名	学名	環境省 カテゴリー	長崎県 カテゴリー	佐世保市 カテゴリー	新旧 対照
ハッチョウトンボ	トンボ	<i>Nannophya pygmaea</i>		CR	EX	→
ベッコウトンボ	トンボ	<i>Libellula angelina</i>	CR	CR	EX	→
ウラナミジャノメ	タテハチョウ	<i>Ypthima motschulskyi</i>	VU	NT	CR	→
オオウスバカゲロウ	ウスバカゲロウ	<i>Heoclis japonica</i>			CR	→
オオウラギンヒョウモン	タテハチョウ	<i>Fabriciana nerippe</i>	CR	EN	CR	→
オオヒョウタンゴムシ	オサムシ	<i>Scarites sulcatus</i>	NT	CR	CR	→
オサムシモドキ	オサムシ	<i>Craspedonotus tibialis</i>		EN	CR	→
カワラゴミムシ	カワラゴミムシ	<i>Omophron aequalis</i>		CR	CR	→
カワラハンミョウ	ハンミョウ	<i>Chaetodera laetescripta</i>	EN	CR	CR	→
キリシマミドリシジミ	シジミチョウ	<i>Chrysozephyrus ataxus</i>		VU	CR	→
クロケシタマムシ	タマムシ	<i>Aphanisticus congener</i>			CR	→
コフキヒメイトトンボ	イトトンボ	<i>Agriocnemis femina</i>		CR	CR	→
シルビアシジミ	シジミチョウ	<i>Zizina otis emelina</i>	EN	VU	CR	→
シロヘリツチカメムシ	ツチカメムシ	<i>Canthophorus niveimarginatus</i>	NT	EN	CR	→
セスジイトトンボ	イトトンボ	<i>Cercion hieroglyphicum</i>		VU	CR	→
タイワンツバメシジミ	シジミチョウ	<i>Everes lacturnus kawaii</i>	EN	EN	CR	→
ネアカヨシヤンマ	ヤンマ	<i>Aeschnophlebia anisoptera</i>	NT	VU	CR	→
ハマベウスバカゲロウ	ウスバカゲロウ	<i>Myrmeleon solers</i>			CR	→
ハラビロハンミョウ	ハンミョウ	<i>Lophyridia sumatrensis</i>	VU	CR	CR	→
ホソバセセリ	セセリチョウ	<i>Isoteinon lamprospilus</i>		NT	CR	→
マイコアカネ	トンボ	<i>Sympetrum kunckeli</i>		NT	CR	→
ミヤマアカネ	トンボ	<i>Sympetrum pedemontanum elatum</i>		CR	CR	→

ヤマトバッタ	バッタ	<i>Epacromius japonicus</i>		CR	CR	→
セダカコブヤハズ カミキリ	カミキリムシ	<i>Parechithistatus gibber</i>			CR	→
ヒメボタル	ホタル	<i>Hotaria parvula</i>		VU	CR	→
ゲンゴロウ	ゲンゴロウ	<i>Cybister chinensis</i>		CR	CR	新
オオサルハムシ	ハムシ	<i>Chrysochus chinensis</i>		VU	EN	→
イソチビゴミムシ	オサムシ	<i>Thalassoduvallius masidai</i>	NT	VU	EN	→
ウラギンスジヒョ ウモン	タテハチョウ	<i>Argyronome laodice</i>	VU	VU	EN	→
グンバイトンボ	モンサシトンボ	<i>Platycnemis foliacea</i>	NT	EN	EN	→
シオアメンボ	アメンボ	<i>Asclepios shiranui</i>	VU	CR	EN	→
ジャノメチョウ	タテハチョウ	<i>Minois dryas bipunctata</i>		VU	EN	→
ハマベツチカメム シ	ツチカメムシ	<i>Byrsinus varians</i>		VU	EN	→
マダラゴキブリ	マダラゴキブリ	<i>Rhabdoblatta guttigera</i>			EN	→
ムカシトンボ	ムカシトンボ	<i>Epiophlebia superstes</i>		VU	EN	→
ヤマトホソガムシ	ホソガムシ	<i>Hydrochus japonicus</i>	NT	VU	EN	→
ミヤマチャバネセ セリ	セセリチョウ	<i>Pelopidas jansonis</i>		VU	EN	→
アキアカネ	トンボ	<i>Sympetrum frequens</i>		VU	EN	→
サラサヤンマ	ヤンマ	<i>Oligoaeschna pryeri</i>		EN	EN	→
アオサナエ	サナエトンボ	<i>Nihonogomphus viridius</i>			EN	新
ウチワヤンマ	サナエトンボ	<i>Ictinogomphus clavatus</i>		EN	VU	→
オオキンカメムシ	キンカメムシ	<i>Eucorysses grandis</i>			VU	→
オオミズスマシ	ミズスマシ	<i>Dineutus orientalis</i>	NT	NT	VU	→
キトンボ	トンボ	<i>Sympetrum croceolum</i>		EN	VU	→
クロキオビジョウ カイモドキ	ジョウカイモドキ	<i>Intybia niponicus</i>			VU	→
コツバメ	シジミチョウ	<i>Callophrys ferrea</i>		NT	VU	→
コムラサキ	タテハチョウ	<i>Apatura metis</i>		NT	VU	→
ジムグリツチカメ ムシ	ツチカメムシ	<i>Schiodtella japonica</i>			VU	→
ジュウシホシクビ ナガハムシ	ハムシ	<i>Crioceris quatuordecimpunctata</i>			VU	→

ジュウシホシツツ ハムシ	ハムシ	Cryptocephalus tetradecaspilotus		NT	VU	→
スナサビキコリ	コメツキムシ	Meristhus nipponensis		NT	VU	→
スミナガシ	タテハチョウ	Dichorragia nesimachus		NT	VU	→
ツマキチョウ	シロチョウ	Anthocharis scolymus			VU	→
ツماغロキチョウ	シロチョウ	Eurema laeta betheseba	EN	NT	VU	→
トラフシジミ	シジミチョウ	Rapala arata		VU	VU	→
トラフトンボ	トンボ	Epithea marginata		NT	VU	→
ナガサクトゲヒサ ゴゴミムシダマシ	ゴミムシダマシ	Misolampidius clavicus		NT	VU	→
ハマベオオヒメサ ビキコリ	コメツキムシ	Agrypnus tsukamotoi			VU	→
ハルゼミ	セミ	Terpnosia vacua		EN	VU	→
ヒメクロサナエ	サナエトンボ	Lanthus fujiacus		VU	VU	→
ヒメサナエ	サナエトンボ	Sinogomphus flavolimbatus			VU	新
ホソハマベゴミム シダマシ	ゴミムシダマシ	Micropedinus algae		NT	VU	→
ムスジイトトンボ	イトトンボ	Cercion sexlineatum		NT	VU	→
オナガサナエ	サナエトンボ	Onychogomphus viridicosta		EN	VU	↓
カメノコテントウ	テントウムシ	Aiolocaria hexaspilota			VU	→
クスベニカミキリ	カミキリムシ	Pyrestes nipponicus		NT	VU	→
コカブトムシ	コガネムシ	Eophileurus chinensis			VU	→
アオバセセリ	セセリチョウ	Choaspes benjaminii			VU	→
キイトトンボ	イトトンボ	Ceriagrion melanurum		VU	VU	→
タカネトンボ	エゾトンボ	Somatochlora uchidai	VU	VU	VU	→
チョウトンボ	トンボ	Rhyothemis fuliginosa			VU	→
ヘイケボタル	ホタル	Luciola lateralis		VU	VU	→
ベニツチカメムシ	ツチカメムシ	Parastrachia japonensis			VU	→
マルタンヤンマ	ヤンマ	Anaciaeschna martini		NT	VU	→
ウミミズカメムシ	ミズカメムシ	Speovelia maritima Esaki			VU	新
コオイムシ	コオイムシ	Appasus japonicus	NT	EN	NT	↓
アオイトトンボ	アオイトトンボ	Lestes sponsa		NT	NT	→
アオマダラタマム シ	タマムシ	Nipponobuprestis amabilis		NT	NT	→
ウスバカマキリ	カマキリ	Mantis religiosa	DD	DD	NT	→

オオアメンボ	アメンボ	<i>Aquarius elongatus</i>		NT	NT	→
オジロサナエ	サナエトンボ	<i>Stylogomphus suzukii</i>		VU	NT	→
クロサナエ	サナエトンボ	<i>Daridius fujiama</i>		VU	NT	→
クロスジギンヤンマ	ヤンマ	<i>Anax nigrofasciatus</i>			NT	→
クロツバメシジミ	シジミチョウ	<i>Tongeia fischeri</i>	NT	NT	NT	→
ケシウミアメンボ	アメンボ	<i>Halovelia septentrionalis</i>			NT	→
コシボソヤンマ	ヤンマ	<i>Boyaria maclachlami</i>		VU	NT	→
コチャバネセセリ	セセリチョウ	<i>Thoressa varia</i>			NT	→
コヤマトンボ	エゾトンボ	<i>Macromia amphigena</i>		NT	NT	→
サトキマダラヒカゲ	タテハチョウ	<i>Neope goschkevitschii</i>			NT	→
シマアメンボ	アメンボ	<i>Metrocoris histrio</i>			NT	→
シロウミアメンボ	アメンボ	<i>Halobates matsumurai</i>	VU	NT	NT	→
シロスジコガネ	コガネムシ	<i>Polyphylla albolineata</i>		NT	NT	→
スジクワガタ	クワガタムシ	<i>Dorcus striatipennis</i>			NT	→
タイコウチ	タイコウチ	<i>Laccotrephes japonensis</i>		VU	NT	→
タバサナエ	サナエトンボ	<i>Trigomphus citimus</i>	NT	NT	NT	→
ネプトクワガタ	クワガタムシ	<i>Aegus laevicollis</i>			NT	→
ヒメアカネ	トンボ	<i>Sympetrum parvulum</i>		NT	NT	→
ベニイトトンボ	イトトンボ	<i>Ceriagrion nipponicum</i>	NT	NT	NT	→
マダラチズモンアオシャク	シャクガ	<i>Agathia lycaenaria</i>			NT	→
ミカドアゲハ	アゲハチョウ	<i>Graphium doson</i>			NT	→
ミズスマシ	ミズスマシ	<i>Gyrinus japonicus</i>	VU	VU	NT	→
メスグロヒョウモン	タテハチョウ	<i>Damora sagana ilone</i>		NT	NT	→
ヨツボシトンボ	トンボ	<i>Libellula quadrimaculata asahinai</i>		VU	NT	→
マイマイカブリ	オサムシ	<i>Damaster blaptoides</i>			NT	→
ミズカマキリ	タイコウチ	<i>Ranatra chinensis</i>		NT	NT	→
ヤマトタマムシ(タマムシ)	タマムシ	<i>Chrysochroa fulgidissima fulgidissima</i>			NT	→
クモガタヒョウモン	タテハチョウ	<i>Nephargynnis anadyomene</i>		EN	DD	

ウラギンヒョウモン	タテハチョウ	<i>Fabriciana adippe</i>		VU	DD	
オオチャバネセセリ	セセリチョウ	<i>Polytremis pellucida</i>		EN	DD	
キイロトゲエダシヤク	シヤクガ	<i>Apochima praeacutaria</i>			DD	
ヒオドシチョウ	タテハチョウ	<i>Nymphalis xanthomelas</i>		VU	DD	
ヒロバフユエダシヤク	シヤクガ	<i>Larerannis micacula</i>			DD	
ホシホソバ	ヒトリガ	<i>Pelosia muscerda</i>			DD	

・底生生物

(1) 絶滅の恐れのある生物種数の増減

絶滅 (EX) : 0 種から変化なし

絶滅危惧 I A 類 (CR) : 2 種から変化なし

絶滅危惧 I B 類 (EN) : 4 種から 2 種へ減少

絶滅危惧 II 類 (VU) : 5 種から変化なし

準絶滅危惧種 (NT) : 1 種から変化なし

情報不足 (DD) : 0 種から 2 種へ増加

(2) 絶滅及び IA 類の中で特に危機的となった主な理由

○絶滅種

なし

○絶滅危惧 I A 類の中で特に危機的な種

- ・ミドリシャミセンガイ (シャミセンガイ科)

市内で確認された生息地は 1 カ所である。以前確認された場所を中心に、調査を続けているが未だに発見出来ず生存が危惧される。

- ・カサシャミセン (カサシャミセン科)

市内で確認された生息地は 1 カ所である。以前確認された場所を中心に、調査を続けているが未だに発見出来ず生存が危惧される。

(3) レッドリスト

和名	科名	学名	環境省 カテゴリー	長崎県 カテゴリー	佐世保市 カテゴリー	新旧 対照
ミドリシャミセン ガイ	シャミセンガイ	<i>Lingula anatina</i>		CR	CR	→
カサシャミセン	カサシャミセン	<i>Discinisca sparselineata</i>			CR	→

スカシカシパン	カシパン	<i>Astriclypeus manni</i>			EN	→
タコノマクラ	タコノマクラ	<i>Clypeaster japonicus</i>			EN	↑
ムギワラムシ	ツバサゴカイ	<i>Mesochaetopterus japonicus</i>			VU	↓
ツバサゴカイ	ツバサゴカイ	<i>Chaetopterus variopedatus</i>		EN	VU	→
サナダユムシ	キタユムシ	<i>Ikeda taenioides</i>			VU	→
オカメブンブク	オオブンブク	<i>Echinocardium cordatum</i>			VU	→
マキガイイソギン チャク	セトモノイソギン チャク	<i>Paranthus sociatus</i>			VU	新
ワダツミギボシム シ	ギボシムシ	<i>Balanoglossus carnosus</i>			NT	↓
ホソウミエラ	ヤナギウミエラ	<i>Scytalium splendens</i>			DD	新
ウミサボテン	ウミサボテン	<i>Cavernularia obesa</i>			DD	新

・甲殻類

(1) 絶滅の恐れのある生物種数の増減

絶滅 (EX) : 0 種から変化なし

絶滅危惧 I A 類 (CR) : 1 種から変化なし

絶滅危惧 I B 類 (EN) : 1 種から変化なし

絶滅危惧 II 類 (VU) : 11 種から 4 種へ減少

準絶滅危惧種 (NT) : 20 種から 13 種へ減少

情報不足 (DD) : 4 種から 6 種へ増加

(2) 絶滅及び IA 類の中で特に危機的となった主な理由

○絶滅種

なし

○絶滅危惧 I A 類の中で特に危機的な種

なし

(3) レッドリスト

和名	科名	学名	環境省 カテゴリー	長崎県 カテゴリー	佐世保市 カテゴリー	新旧 対照
シオマネキ	スナガニ	<i>Tubuca arcuata</i>	VU	EN	CR	→
チゴイワガニ	オサガニ	<i>Ilyograpsus nodulosus</i>		VU	EN	→
ムツハアリアケガ ニ	ムツハアリアケガ ニ	<i>Camptandrium sexdentatum</i>		VU	VU	→
カワスナガニ	ムツハアリアケガ ニ	<i>Deiratonotus japonicus</i>	NT	NT	VU	→

ホウネンエビ	ホウネンエビ	<i>Branchinella kugenumaensis</i>		NT	VU	↑
サワガニ	サワガニ	<i>Geothelphusa dehaani</i>			VU	新
オサガニ	オサガニ	<i>Macrophthalmus abbreviatus</i>			NT	↓
スナガニ	スナガニ	<i>Ocypode stimpsoni</i>		NT	NT	↓
ハマガニ	ベンケイガニ	<i>Chasmagnathus convexus</i>		VU	NT	↓
アカイソガニ	ベンケイガニ	<i>Cyclograpsus intermedius</i>			NT	↓
クシテガニ	ベンケイガニ	<i>Parasesarma plicatum</i>		NT	NT	↓
ウモレベンケイガニ	モクズガニ	<i>Clistocoeloma sinense</i>		NT	NT	↓
セジロムラサキエビ	テッポウエビ	<i>Athanas japonicus</i>		NT	NT	→
ハサミシャコエビ	ハサミシャコエビ	<i>Laomedia astacina</i>		NT	NT	→
ヨコヤアナジャコ	アナジャコ	<i>Upogebia yokoyai</i>			NT	→
マキトラノオガニ	オウギガニ	<i>Pilumnopus makianus</i>			NT	→
ハクセンシオマネキ	スナガニ	<i>Austruca lactea</i>	VU		NT	→
ユビアカベンケイガニ	ベンケイガニ	<i>Parasesarma tripectinis</i>		NT	NT	→
ヒメアカイソガニ	モクズガニ	<i>Acmaeopleura parvula</i>			NT	→
カイエビ	カイエビ	<i>Cyzicus gifuensis</i>			DD	
ミナミヌマエビ	ヌマエビ	<i>Neocaridina denticulata</i>		DD	DD	
カネコブシガニ	コブシガニ	<i>Philyra kanekoi</i>	DD	DD	DD	
トリウミアカイソモドキ	モクズガニ	<i>Sestrostoma toriumii</i>			DD	新
オオシロピンノ	カクレガニ	<i>Arcotheres sinensis</i>		DD	DD	新
シラタエビ	テナガエビ	<i>Palaemon orientis</i>		NT	DD	新

・貝類

(1) 絶滅の恐れのある生物種数の増減

絶滅 (EX) : 4 種から変化なし

絶滅危惧 I A 類 (CR) : 19 種から変化なし

絶滅危惧 I B 類 (EN) : 38 種から 37 種へ減少

絶滅危惧 II 類 (VU) : 45 種から 53 種へ増加

準絶滅危惧種 (NT) : 59 種から 58 種へ減少

情報不足 (DD) : 8 種から 11 種へ増加

(2) 絶滅及び IA 類の中で特に危機的となった主な理由

○絶滅種

- ・ビョウブガイ (フネガイ科)

日本近海産の貝類の中でも最も絶滅に近い種の1つで有るとされている。絶滅は埋め立て・干拓・水質汚染が原因と考えられている。本市では海岸の浚渫土砂から殻が得られている。

- ・ハイガイ (フネガイ科)

干拓や埋め立てなどのより泥質干潟が減少したことが絶滅の要因である。本市では干拓地埋や浚渫土砂から殻が得られている。

- ・イタボガキ (イタボガキ科)

干拓や埋め立てに加え水質・底質汚染、赤潮や貧酸素の影響により絶滅したと考えられる。本市では海岸の浚渫土砂から殻が得られている。

- ・イセシラガイ (ツキガイ科)

生息環境であるアマモ場の減少などが主な要因と考えられる。本市では海岸の浚渫土砂や砂泥質干潟から殻が得られている。

○絶滅危惧 IA 類の中で特に危機的な種

- ・イチョウシラトリ (ニッコウガイ科)

本種は絶滅種のハイガイと同じように泥干潟の自然減少や埋め立てによって減少している。近年未確認であり危機的な状況である。

- ・ハザクラ (シオサザナミ科)

河川 (感潮域) の改修や浚渫により生息地が失われ、急激に減少している。近年未確認であり危機的な状況である。

- ・ウスハマグリ (マルスダレガイ科)

砂質干潟の限られた環境にしか生息しない希少な種である。15 年程前にハマグリ of 採取が流行し、生息地で大勢の人が採取にジョレンを使ったため、殻の薄い本種は大きな被害を受け減少した。その後の回復が見られず危機的な状況である。

- ・バイ (バイ科)

以前は砂質や砂泥干潟で比較的普通に見られる種であった。近年生貝の確認が出来ていないが、これは船底塗料の有機スズによるインボセックスにより激減した可能性が高い。現在も生貝の確認が出来ておらず、危機的な状況である。

- ・キバサナギガイ (キバサナギガイ科)

市内の生息地は1カ所で、個体数も少なかった。大がかりな海水浴場整備が行われた結果、生息環境が破壊され確認出来ておらず絶滅の可能性が高い。

- ・オニサザエ (アッキガイ科)

以前は砂泥干潟で普通に見られる種であった。近年生貝の確認が出来ていないが、これは船底塗料の有機スズによるインボセックスにより激減した可能性が高い。現在も生貝の確認が出来ておらず、危機的な状況である。

- ・ヤマトシジミ (シジミ)

河川 (感潮域) の改修や浚渫により急激に減少しており、未確認状況が続いていた。2022 年に新たな生息地が見つかったが、個体数が極めて少なく危機的な状況に変わりはない。

*参考文献：干潟の絶滅危惧動物図鑑 2012 日本ベントス学会編 東海大学出版会 神奈川県

(3) レッドリスト

和名	科名	学名	環境省 カテゴリー	長崎県 カテゴリー	佐世保市 カテゴリー	新旧 対照
ビョウブガイ	フネガイ	<i>Trisidos kiyonoi</i>	CR+EN	EX	EX	→
ハイガイ	フネガイ	<i>Tegillarca granosa</i>	VU	CR	EX	→
イタボガキ	イタボガキ	<i>Ostrea denselamellosa</i>	CR+EN	CR	EX	→
イセシラガイ	ツキガイ	<i>Pegophysema bialata</i>	CR+EN	CR	EX	→
イチョウシラトリ	ニッコウガイ	<i>Serratina diaphana</i>	CR+EN	CR	CR	→
ナミノコ	フジノハナガイ	<i>Donax cuneatus</i>	NT	VU	CR	→
ハザクラ	シオサザナミ	<i>Gari crassula</i>	NT	CR	CR	→
ミルクイ	バカガイ	<i>Tresus keenae</i>	VU	EN	CR	→
ウスハマグリ	マルスダレガイ	<i>Aphrodora kurodai</i>	CR+EN	CR	CR	→
ヒロクチカノコ	アマオブネ	<i>Neripteron sp.</i>	NT	EN	CR	→
ウクシマミズゴマツボ	ミズゴマツボ	<i>Stenothyra sp.</i>		CR	CR	→
マルテンスマツムシ	タモトガイ	<i>Mitrella martensi</i>	CR+EN	VU	CR	→
カキノテムシロ	オリイレヨフバイ	<i>Nassarius bellulus</i>	NT	EN	CR	→
ウネムシロ	オリイレヨフバイ	<i>Reticunassa hiradoensis</i>	CR+EN	CR	CR	→
バイ	バイ	<i>Babylonia japonica</i>	NT	EN	CR	→
オキヒラシイノミ	オカミミガイ	<i>Pythia cecillei</i>	CR+EN	CR	CR	→
キバサナギガイ	キバサナギガイ	<i>Vertigo hirasei</i>	CR+EN	CR	CR	→
サナギガイ	サナギガイ	<i>Pupilla cryptodon</i>	CR+EN	CR	CR	→
ナカダチギセル	キセルガイ	<i>Stereophaedusa una</i>	NT	EN	CR	→
タケノコカワニナ	トゲカワニナ	<i>Stenomelania torulosa</i>	VU	CR	CR	↑
オニサザエ	アッキガイ	<i>Chicoreus asianus</i>	NT	CR	CR	↑
ヤマトシジミ	シジミ	<i>Corbicula japonica</i>	NT	NT	CR	↑
ウミヒメカノコ	アマオブネ	<i>Smaragdia sp.</i>	VU	CR	CR	新
イボウミニナ	ウミニナ	<i>Batillaria zonalis</i>	VU	EN	EN	↓
センベシアワモチ	ドロアワモチ	<i>Platevindex sp.</i>	CR+EN	CR	EN	↓
アサヒキヌタレガイ	キヌタレガイ	<i>Solemya japonica</i>	VU	VU	EN	→
タカノハ	ナタマメガイ	<i>Ensiculus cultellus</i>		NT	EN	→
マツモトウロコガイ	ウロコガイ	<i>Paraborniola matsumotoi</i>	NT	NT	EN	→
ゴシキヒメザラ	ニッコウガイ	<i>Abranda radiatolineata</i>			EN	→
テリザクラ	ニッコウガイ	<i>Iridona iridescens</i>	VU	EN	EN	→

シオヤガイ	マルスダレガイ	<i>Anomalodiscus squamosus</i>	NT	EN	EN	→
イオウハマグリ	マルスダレガイ	<i>Pitar sulfureus</i>	VU	VU	EN	→
サツマアカガイ	マルスダレガイ	<i>Paphia amabilis</i>			EN	→
ハマグリ	マルスダレガイ	<i>Meretrix lusoria</i>	VU	CR	EN	→
シリプトゴマガイ	ゴマガイ	<i>Arinia japonica</i>	VU	EN	EN	→
オオコベルトゴマガイ	ゴマガイ	<i>Diplommatina ampla</i>	NT	EN	EN	→
ゴトウゴマガイ	ゴマガイ	<i>Diplommatina gotoensis</i>	NT	NT	EN	→
ホソコオロギ	オニノツノガイ	<i>Cerithium torresi</i>	CR+EN	VU	EN	→
コゲツノブエ	オニノツノガイ	<i>Cerithium coralium</i>	VU	VU	EN	→
ホリカワタマキビ	タマキビ	<i>Littorina horikawai</i>		EN	EN	→
スジウネリチョウジガイ	ホソスジチョウジガイ	<i>Rissoina costulata</i>	VU	NT	EN	→
ヒメマルマメタニシ	エゾマメタニシ	<i>Gabbia kiusiuensis</i>	VU	EN	EN	→
ミズゴマツボ	ミズゴマツボ	<i>Stenothyra japonica</i>	VU	EN	EN	→
ナギツボ	イソコハクガイ	<i>Vitrinella</i> sp.	NT	NT	EN	→
アラウズマキ	イソコハクガイ	<i>Circulus duplicatus</i>	VU	VU	EN	→
オリイレシラタマ	タマガイ	<i>Gemmaeosinum bathyraphe</i>	NT	NT	EN	→
カスミコダマ	タマガイ	<i>Natica buriasiensis</i>	NT	NT	EN	→
フタスジタマガイ	タマガイ	<i>Natica bibalteata</i>		NT	EN	→
フドロ	スイショウガイ	<i>Neodilatilabrum robustum</i>	NT	EN	EN	→
オウウヨウラク	アッキガイ	<i>Ocenebrellus inornatus</i>		CR	EN	→
ハネナシヨウラク	アッキガイ	<i>Ceratostoma rorifluum</i>	VU	CR	EN	→
ベッコウイモ	イモガイ	<i>Conus fulmen</i>	VU	EN	EN	→
クリイロコミミガイ	オカミミガイ	<i>Laemodonta siamensis</i>	VU	CR	EN	→
シイノミミミガイ	オカミミガイ	<i>Cassidula plecotrematoides japonica</i>	CR+EN	EN	EN	→
オカミミガイ	オカミミガイ	<i>Ellobium chinense</i>	VU	EN	EN	→
ナラビオカミミガイ	オカミミガイ	<i>Auriculastra duplicata</i>	VU	EN	EN	→
キヌカツギハマシイノミ	オカミミガイ	<i>Melampus</i> cf. <i>sincaporensis</i>	VU	CR	EN	→
ドロアワモチ	ドロアワモチ	<i>Onchidium</i> sp.	VU	EN	EN	→
ツシマナメクジ近似種	ナメクジ	<i>Meghimatium</i> sp.		EN	EN	→

ヤギツノマイマイ	ナンバンマイマイ	<i>Aegista caviconus</i>	NT	EN	EN	→
カヤノミカニモリ	オニノツノガイ	<i>Clypeomorus bifasciata</i>	NT	VU	VU	↓
ヘソカドガイ	カワザンショウ	<i>Paludinellassiminea japonica</i>		VU	VU	↓
ハボウキ	ハボウキ	<i>Pinna attenuata</i>	NT	EN	VU	→
タイラギ	ハボウキ	<i>Atrina lischkeana</i>	NT	EN	VU	→
ヌマガイ	イシガイ	<i>Sinanodonta woodiana lauta</i>			VU	→
オキナガイ	オキナガイ	<i>Laternula anatina</i>		NT	VU	→
オヤイツオキナガイ	オキナガイ	<i>Exolaternula</i> sp.	VU	NT	VU	→
カワムラサザナミガイ	サザナミガイ	<i>Lyonsia kawamurai</i>		VU	VU	→
ダンドラマテ	マテガイ	<i>Solen kurodai</i>		NT	VU	→
ニッポンマメアゲマキ	ウロコガイ	<i>Pseudogaleomma japonica</i>	NT	NT	VU	→
イナヅママメアゲマキ近似種	ウロコガイ	<i>Scintilla</i> sp.			VU	→
マゴコロガイ	ブンブクヤドリガイ	<i>Peregrinamor ohshimai</i>	NT	VU	VU	→
キヌザル	ザルガイ	<i>Acrosterigma maculosum</i>			VU	→
エマイボタン	ザルガイ	<i>Fulvia aperta</i>		NT	VU	→
ミガキヒメザラ	ニッコウガイ	<i>Pinguitellina pinguis</i>			VU	→
ユキガイ	バカガイ	<i>Meropesta nicobarica</i>	NT	EN	VU	→
シラオガイ	マルスダレガイ	<i>Circe undatina</i>	NT	EN	VU	→
ガンギハマグリ	マルスダレガイ	<i>Pitar lineolatus</i>	NT	NT	VU	→
ヤカドツノガイ	ゾウゲツノガイ	<i>Dentalium octangulatum</i>			VU	→
セムシマドアキガイ	スカシガイ	<i>Puncturella cumingii</i>	VU		VU	→
チビアシヤ	ニシキウズ	<i>Fossarina picta</i>			VU	→
イボキサゴ	ニシキウズ	<i>Umbonium moniliferum</i>	NT	VU	VU	→
オオタニシ	タニシ	<i>Heterogen japonica</i>	NT	VU	VU	→
クリイロカワザンショウ	カワザンショウ	<i>Angustassiminea castanea</i>	NT	NT	VU	→
ヨシダカワザンショウ	カワザンショウ	<i>Assimineidae</i> gen. <i>yoshidayukioi</i>	NT	VU	VU	→
ツブカワザンショウ	カワザンショウ	<i>Assiminea estuarina</i>	NT	NT	VU	→

ヒナタムシヤドリ カワザンショウ	カワザンショウ	<i>Assiminea</i> sp.	NT	NT	VU	→
ウズツボ	フロリダツボ	<i>Dolicrossea</i> sp.	DD		VU	→
ワカウラツボ	ワカウラツボ	<i>Wakauraia sakaguchii</i>	VU	NT	VU	→
ゴマツボモドキ	ワカウラツボ	<i>Hyala delicata</i>	VU		VU	→
シラギク	イソコハクガイ	<i>Pseudoliotia pulchella</i>	NT	NT	VU	→
ネコガイ	タマガイ	<i>Eunaticina papilla</i>	NT		VU	→
オダマキ	イトカケガイ	<i>Epitonium auritum</i>	NT		VU	→
テングニシ	テングニシ	<i>Hemifusus tuba</i>	NT	EN	VU	→
ムシロガイ	オリイレヨフバイ	<i>Nassarius livescens</i>	NT	VU	VU	→
ムラサキタケ	タケノコガイ	<i>Gradaterebra taylori</i>			VU	→
オオシイノミガイ	オオシイノミガイ	<i>Japonactaeon sieboldi</i>	NT	NT	VU	→
ムラクモキジビキ ガイ	オオシイノミガイ	<i>Japonactaeon nipponensis</i>	NT	NT	VU	→
ホソタマゴガイ	ブドウガイ	<i>Vellicolla oiformis</i>	NT	NT	VU	→
カミスジカイコガイ イダマン	ブドウガイ	<i>Cylichnatys yamakawai</i>	VU		VU	→
イボキサゴナカセ クチキレモドキ	トウガタガイ	<i>Brachystomia umbonicolola</i>	VU	VU	VU	→
レンズヒラマキ (クルマヒラマキ)	ヒラマキガイ	<i>Helicorbis</i> cf. <i>cantori</i>	VU	VU	VU	→
スナガイ	スナガイ	<i>Gastrocopta armigerella</i>	NT	VU	VU	→
ピルスブリギセル	キセルガイ	<i>Megalophaedusa pilsbryana</i>	NT	VU	VU	→
ヒラシタラ	シタラ	<i>Sitalina latissima</i>		NT	VU	→
ベニガイ	ニッコウガイ	<i>Pharaonella sieboldii</i>	NT	VU	VU	↑
サクラガイ	ニッコウガイ	<i>Nitidotellina hokkaidoensis</i>	NT	VU	VU	↑
ケマンガイ	マルスダレガイ	<i>Gafrarium divaricatum</i>	NT	VU	VU	↑
カガミガイ	マルスダレガイ	<i>Dosinia japonica</i>			VU	↑
サナギモツボ	スナモチツボ	<i>Finella pupoides</i>	VU	VU	VU	新
クラエノハマイト カケギリ	トウガタガイ	<i>Turbonilla kuraenohamana</i>	NT	VU	VU	新
タカキビ	シタラ	<i>Trochochlamys praealta</i>	NT	DD	VU	新
シメクチマイマイ 近似種	ナンバンマイマイ	<i>Satsuma</i> sp.		VU	VU	新
マシジミ	シジミ	<i>Corbicula fluminea</i>	VU	DD	NT	↓
ヘナタリ	キバウミニナ	<i>Pirenella nipponica</i>	NT	NT	NT	↓

ワシノハ	フネガイ	<i>Arca navicularis</i>			NT	→
スジホシムシモドキヤドリガイ	ブンブクヤドリガイ	<i>Nipponomysella subtruncata</i>	NT	NT	NT	→
マダラチゴトリガイ	ザルガイ	<i>Fulvia undatopicta</i>			NT	→
トゲウネガイ	ニッコウガイ	<i>Quadrans spinosus</i>			NT	→
ユウシオガイ	ニッコウガイ	<i>Jitlada culter</i>	NT		NT	→
ウズザクラ	ニッコウガイ	<i>Nitidotellina minuta</i>	NT		NT	→
クチバガイ	チドリマスオ	<i>Coecella chinensis</i>	NT	NT	NT	→
タガソデモドキ	フナガタガイ	<i>Neotrapezium sublaevigatum</i>	NT	VU	NT	→
アサリ	マルスダレガイ	<i>Ruditapes philippinarum</i>			NT	→
ツボミ	コガモガイ	<i>Patelloida conulus</i>	NT	NT	NT	→
キサゴ	ニシキウズ	<i>Umbonium costatum</i>		NT	NT	→
ゴマオカタニシ	ゴマオカタニシ	<i>Georissa japonica</i>	NT	NT	NT	→
カノコガイ	アマオブネ	<i>Clithon faba</i>			NT	→
ミヤコドリ	ユキスズメ	<i>Plesiothyreus cinnamomeus</i>	NT	NT	NT	→
ヒナユキスズメ	ユキスズメ	<i>Plesiothyreus sp.</i>	NT	NT	NT	→
ムシオイガイ属の一種	ヤマタニシ	<i>Chamalycaeus sp. 1</i>		VU	NT	→
アズキガイ	アズキガイ	<i>Pupinella rufa</i>			NT	→
コオロギ (コベルトカニモリ)	オニノツノガイ	<i>Cerithium kobelti</i>		NT	NT	→
ヒメカニモリ	オニノツノガイ	<i>Rhinoclavis sordidula</i>			NT	→
カニモリガイ	オニノツノガイ	<i>Rhinoclavis kochi</i>		VU	NT	→
ウミニナ	ウミニナ	<i>Batillaria multiformis</i>	NT	NT	NT	→
フトヘナタリ	キバウミニナ	<i>Cerithidea moerchii</i>	NT	NT	NT	→
カワアイ	キバウミニナ	<i>Pirenella pupiformis</i>	VU	NT	NT	→
ヤマトクビキレ	クビキレガイ	<i>Truncatella pfeifferi</i>			NT	→
ホラアナミジンナ属の1種	ヌマツボ	<i>Moria sp.</i>		NT	NT	→
ヒラドカワザンショウ	カワザンショウ	<i>Assimineea hiradoensis</i>		NT	NT	→
オオウスイロヘソカドガイ	カワザンショウ	<i>Paludinellassimineea tanegashimae</i>			NT	→
ジーコンボツボ	ワカウラツボ	<i>Chevallieria sp.</i>	NT	NT	NT	→
エドガワミズゴマツボ	ミズゴマツボ	<i>Stenothyra edogawensis</i>	NT	NT	NT	→

ウミコハクガイ	ウミコハクガイ	<i>Teinostoma lucidum</i>	VU	VU	NT	→
アカニシ	アッキガイ	<i>Rapana venosa</i>			NT	→
チャイロフタナシ シャジク	コシボソクチキレ ツブ	<i>Etrema gainesii</i>	NT		NT	→
コシイノミガイ	オオシイノミガイ	<i>Pupa strigosa</i>			NT	→
カイコガイダマシ	ブドウガイ	<i>Liloa porcellana</i>			NT	→
ヒガタヨコイトカ ケギリ	トウガタガイ	<i>Cingulina sp.</i>	DD	NT	NT	→
シゲヤスイトカケ ギリ	トウガタガイ	<i>Pyrgulina shigeyasui</i>	NT	NT	NT	→
モノアラガイ	モノアラガイ	<i>Radix plicatula japonica</i>	NT	VU	NT	→
コシダカヒメモノ アラガイ	モノアラガイ	<i>Galba truncatula</i>	DD	DD	NT	→
ヒラマキミズマイ マイ	ヒラマキガイ	<i>Gyraulus spirillus</i>	DD	DD	NT	→
ヤマトヒメアワモ チ	ドロアワモチ	<i>Onchidella orientalis</i>		VU	NT	→
マクスジコミミガ イ	オカミミガイ	<i>Laemodonta monilifera</i>	NT	NT	NT	→
ウスコミミガイ	オカミミガイ	<i>Laemodonta exaratooides</i>	NT	VU	NT	→
ハマシイノミ	オカミミガイ	<i>Melampus nuxeastaneus</i>			NT	→
キュウシュウナミ コギセル	キセルガイ	<i>Tauphaedusa subaculus</i>		NT	NT	→
シイボルトコギセル	キセルガイ	<i>Reinia sieboldtii</i>		NT	NT	→
ヒゼンキビ	シタラ	<i>Parakaliella hizenensis</i>	NT		NT	→
ヒメカサキビ	シタラ	<i>Trochochlamys subcrenulata</i>	NT	NT	NT	→
オオウエキビ	シタラ	<i>Trochochlamys fraterna</i>	DD	NT	NT	→
コシダカシタラ	シタラ	<i>Sitalina circumcincta</i>		NT	NT	→
ツシマケマイマイ	ナンバンマイマイ	<i>Aegista trochula</i>	NT	NT	NT	→
ヒゼンオトメマイ マイ	ナンバンマイマイ	<i>Aegista collinsoni hizenensis</i>		VU	NT	→
オニアサリ	マルスダレガイ	<i>Leukoma jedoensis</i>			NT	新
コヤスツララ	クダタマガイ	<i>Acteocina koyasensis</i>	NT		NT	新
ダウンケルクチキレ	トウガタガイ	<i>Tiberia dunkeri</i>	NT		NT	新
リュウキュウヒラ マキガイモドキ	ヒラマキガイ	<i>Polypylis usta</i>	NT		NT	新
イソアワモチ	ドロアワモチ	<i>Peronia verruculata</i>			NT	新

マツカサガイ	イシガイ	<i>Pronodularia japonensis</i>	NT	EN	DD	
マルタニシ	タニシ	<i>Cipangopaludina cf. laeta</i>	VU	VU	DD	
ドブシジミ属の1種	ドブシジミ	<i>Sphaerium</i> sp.		DD	DD	
マメシジミ属の1種	マメシジミ	<i>Odhneripisidium</i> sp.		DD	DD	
アシベマスオ	シオサザナミ	<i>Hiatula petalina</i>	DD		DD	
イソハマグリ	チドリマスオ	<i>Atactodea striata</i>	NT		DD	
フスマガイ	マルスダレガイ	<i>Clementia vatheliti</i>			DD	
フリソデカノコ	アマオブネ	<i>Neripteron</i> sp.	NT		DD	
イブキゴマガイ近 似種	ゴマガイ	<i>Diplommatina</i> sp.		VU	DD	
スジハマシイノミ	オカミミガイ	<i>Melampus fasciatus</i>		DD	DD	
シナタニシ	タニシ	<i>Cipangopaludina chinensis</i>			DD	新

3. 保全することが望ましい地域

3-1. 地図



3-2. 対象地区と選定理由

保全No	名称	場所	解説
1	末橘	江迎町	泥干潟と塩性湿地の両方が有り、貝類や塩性湿地の植物が豊富に生育する。狭いが生物多様性の豊かな場所である。
2	奥川内（松浦市境界）	江迎町	白岳から続く岩角地で岩角地特有の植物が多く生育する。
	草ノ尾（松浦市境界）	吉井町	
3	直谷	吉井町	牧の岳を囲むように分布する新第三紀佐世保層群深月層群の砂岩上に多くのシダ類が生育する貴重な場所である。
	春明	吉井町	
	前岳	吉井町	
4	藤葛根島	鹿町町	島の海岸線が複雑で多様な環境をもつので貝類の種が多く、貴重な場所である。
	丑ヶ島	鹿町町	島の海岸線が複雑で多様な環境をもつので、海岸植物や貝類が多く生育・生息する貴重な場所である。
	大島	鹿町町	島の面積がやや広く複雑な形状をしておりハマジンチョウの分布北限地である。小さいが干潟もありドロアワモチ・ハボウキが磯海岸ではカヤノミカニモリが生息する貴重な場所である。
5	船ノ村（風車付近）	鹿町町	本土側では最も広い草原で、草原性植物やこれらを食草とする昆虫類が多く生息する。
	中野（新船ノ村池付近）	鹿町町	水生植物の多い溜池があり、隣接する草原は野焼きによって維持されており、草原性植物やこれらを食草とする昆虫類が多く生息する。
6	神林	鹿町町	狭い範囲だが、塩性湿地性の希少植物が20年以上も安定して生育しており、貝類も多い。
7	下島	小佐々町	九州西海岸におけるハカマズラの北限地として、県天然記念物とされているがニホンジカによる被害が大きい。
8	開作（新山）	世知原町	毎年野焼きが行われているために、山地性の草原となり、独特の植物が生育する。このような環境を好む昆虫も多く生息する
	開作（迎）	世知原町	
9	国見山	世知原町	県内唯一のアカガシ原生林があり、胸高直径50cm以上のアカガシが46株ある。林内は野鳥や昆虫の生息地として重要である。
10	下歌ヶ浦	鹿町町	住宅地の中に残された干潟で、塩性湿地の希少植物が長年安定して生育し貝類も多い。
11	臼ノ浦遊水池	小佐々町	遊水池にはシバナなどの塩性湿地性の植物が豊富に植物が生育する。
	小佐々浦の干潟	小佐々町	小佐々浦は泥干潟の貝類・甲殻類・魚類が多く生息する。
	小佐々川河口	小佐々町	河口の汽水域は希少な水生植物が多く生育し、貝類も多い。
12	楠泊	小佐々町	深い入り江で穏やかな為にヤマトウミヒルモ・コアマモ・アマモ群落が発達しており、このような環境にしか生息しない貝類が多い。
13	長浦干潟	浅子町	海岸部は佐々川の河口部にあたり、砂質の干潟がある。ここにはアマモ群落もあり、砂質干潟の貝類も多い。
	長浦遊水池・ヨシ原	浅子町	ヨシの生える遊水池が2カ所あり、ヨシ原独特の昆虫が生息。流れ込む水路には水草が多くニホンヒキガエルの産卵地ともなっており、市内では希な環境である。
	小坂（大瀬）	小佐々町	河口干潟特有の貝類・汽水性の魚類が多い。また、カブトガニの産卵地と幼生の育つ貴重な場所となっている。
	佐々川河口域	小佐々町	
14	多利山	潜木町	谷には照葉樹と夏緑樹の混じる林があり、独特の生態系を持つ。このような場所は市内には他に無い。
15	相浦川河口	日野町	河口部分は砂質の干潟で貝類が多く、希少な藻類も生育する。
	相浦川汽水域上部（和田津美神社）	川下町	汽水域中部付近（和田津美神社付近）では魚類（ハゼ類）や甲殻類（カニ類）が多く、上部のヨシ原には藻類のタニコケモドキが生育する。
16	高島	高島町	島の面積が広く海岸線も複雑なために様々な環境要素を持ち、希少な植物、貝類が生息する貴重な場所である。

17	トコイ島	浅子町	島の面積がやや広く海岸線が複雑な形状をしており、希少な植物、貝類が生育・生息する貴重な場所である。
	上小高島	浅子町	
	下小高島	浅子町	島の形状が複雑で、北九十九島ではハマオモトの個体数が多く、ハママツナも見られる。砂浜には少ないがスナガニが生息するなど生息する貴重な場所である。
18	元の島	日野町	本土側に近いやや面積の広い島で希少な植物種が生育している。希少な貝類が多く生息する貴重な場所である。
	牧の島	日野町	
	黒小島	俵ヶ浦町	九十九島の中では唯一のアイアシが生育しハマサジも比較的多い。また、希少な貝類が多く生息する貴重な場所である。
19	小森川（広田町～吉福町）	広田町	河川勾配が小さく、過去に市内で唯一選炭排水が入らなかった事に加え水辺に植物が豊富な事から、淡水魚や水生昆虫も豊かである。
	小森川全域（吉福町）	吉福町	
20	江永川全域（江永ダム～小森川）	江永町	上流に江永ダムがあるので、大雨による大きな攪乱がないためヤナギモなどの水生植物やトンボ類が多い。
	江永ダム周辺の谷1	江永町	ダム周辺の深い谷間にはシダ類が非常に多い。
	江永ダム周辺の谷2	江永町	
21	木原町東部1	木原町	谷間にはシダ類が豊富に見られる。溜池はトンボ類や水生植物が豊富である。
	木原町東部2	木原町	市内唯一のハンノキ(県内2カ所)生育地であり、谷間にはシダ類が豊富に見られる。溜池はトンボ類や水生植物が豊富である。
22	早岐瀬戸全域	-	干潟に生息する貝類や甲殻類(カニ類)が非常に多く、カブトガニの繁殖地でもある。また、塩性湿地の植物も多い。干潟には春と秋の渡りの季節にシギやチドリが渡来する。
23	浦川内町の溜池群	浦川内	この辺りにある十数カ所の大小の溜池には、トンボ類が多く、水生植物も豊富である。
	重尾町の溜池群	重尾町	
	広田町の溜池群	広田町	
24	宮村川（汽水域）概ね国道205より下流	長畑町	汽水域にはここでしか見られない貝類が多く、コアモモ・ウラギクが見られる。（概ね国道205より下流）
25	江上浦沿岸	江上町	深い入り江が多く穏やかな海域で、干満の差が小さいことから、塩性湿地植物や希少貝類が多い。
26	宮津町の防空壕群	宮津町	防空壕が数カ所にあるが、そのうち2カ所は希少なコウモリが生息する。このように複数種の希少動物が生息する場所は他にない。
27	黒島・伊島	黒島町	伊島は（自然公園内）ヤギの放置で植物が食害を受け希少種のハマサジ・ハママツナ・アイアシ・ハマオモト・キイレツチトリモチは絶滅した。鳥類ではカラスバトの生息地であり、クロサギの繁殖例もあるなど貴重な島である。 黒島は九十九島の中では最大の島であり、キイレツチトリモチ・モクタチバナ・サツマサンキライ等の北限所植物の産地でありミヤコジマツツラフジも北限に近いなど植物の分布上貴重な島である。なお、黒島の集落は「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の構成遺産の一部となっている。
28	倉の鼻一帯	宇久町	海岸の草原で希少な植物種が生育する貴重な場所である。
29	大浜海岸一帯	宇久町	県内最大の砂丘である。砂丘に生息する希少な昆虫や植物が生育する非常に貴重な場所である。
30	スゲ浜一帯	宇久町	スゲ浜には（ナミノコなど）砂地に生息する貝類が多く、陸側の砂地は砂丘性植物の生育地として重要。
31	本飯良八幡神社前の湿地	宇久町	この一帯の湿地は、湿地に生息する宇久島固有の貝類が生息する貴重な場所である。
32	寺島（指原鼻）	宇久町	ウミウのコロニーがあり、ミサゴの繁殖地がある。
33	平原草原	宇久町	草原性植物やこれらを食草とする昆虫が多く、湿地部には水生植物や水生昆虫が豊富に生息する。
34	大久保草原	宇久町	海岸の草原で希少な植物や貝類、小さい溜め池には水生植物や水生昆虫を豊富に産する貴重な場所である。

4. 佐世保市レッドリスト改訂委員長総評

前回の改訂と種数を比較すると、絶滅種 (EX+EW) は植物が+21 種、動物が+1 種、絶滅危惧種 I 類 (CR+EN) は植物が-35 種、動物が-14 種、絶滅危惧種 II 類 (VU) は植物が+51 種、動物が+11 種、準絶滅危惧種 (NT) は植物が-38 種、動物が-17 種であった。

この変化の原因は単純に、生物環境の変化を表わしているとは言えない。調査が進んで市内に新産地が発見され、新たにレッドリストに加わったり、逆に産地がいくつか発見され、リストから外されたりしたものもある。したがって、種数の比較からは、判断できない。

しかし、それぞれのリストにあがった種の特徴を検討すると、生物環境の悪化として以下の 2 つの主要な理由が考えられる。

1. 里地・里山の放棄＝人と自然の関わりが少なくなった・・・耕作地が放棄され周辺の草地の植生遷移が進んだことにより、また溜池が利用されなくなり常時満水状態となったため、生育・生息環境が悪化した。

植物：スズシロソウ、フサモ、ムカゴソウ、カイジンドウなど

動物：サシバ、トノサマガエル、ヒメボタルなど

2. 野生植物の繁殖による・・・イノシシの掘り起こし、シカの食害による影響、無人島におけるヤギの繁殖

植物：キイレットトリモチ、クルマムグラ、ムラサキミミカキグサなど

動物：ブチサンショウウオなど

その他、河川改修、道路の建設、海水浴場の整備などの開発、浅海部の浚渫、有機スズが含まれた船底塗装、マニアの乱獲、外来種の繁殖などがあげられるが、開発による原因はかつてよりも減少している。

植物では絶滅種の種数が 22 種と増加したが、これは外山 (1980) の『長崎県植物誌』に佐世保市が産地としてあげられていた種の中で、30 年以上確認されていない種を絶滅種としたことが主な原因である。これらの種は前回では絶滅危惧種 I A 類 (CR) や現状不明種 (DD) とされていたものである。

最後に、今回の改訂に携わった委員の皆様にお礼を申し上げるとともに、本レッドリストが佐世保市における野生生物の保護及びその生育・生息環境の保全に活用されることを期待する。